

那 珂 川 市  
地域福祉に関するアンケート  
調査結果報告書

令和 3 年 11 月  
那 珂 川 市



## 一 目 次

第1部 調査の概要 .....	1
1. 調査の目的 .....	1
2. 調査の設計 .....	1
3. 回収の結果 .....	1
4. 報告書の見方 .....	1
第2部 調査結果 .....	3
1. 地域での暮らしについて .....	3
2. 地域活動への参加について .....	22
3. 地域福祉に関する活動や制度について .....	27
4. 災害時の対応について .....	35
5. 調査対象者の属性 .....	47
第3部 課題の整理 .....	53
1. 地域の結びつきについて .....	53
2. 地域活動について .....	53
3. 地域の安全・安心について .....	54



---

第 1 部  
調 査 の 概 要

---



## 1. 調査の目的

市民の地域福祉に関する意識や生活課題を把握することによって、今後の地域福祉推進の参考にするとともに、「那珂川市第2次地域福祉計画・及び地域福祉活動計画」策定の基礎資料とする。

## 2. 調査の設計

- 調査地域 那珂川市全域
- 調査対象 市内在住の18歳以上の男女
- 標本数 2,000人（10歳代～60歳代：各300、70歳以上：500）
- 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- 調査方法 郵送による配布・回収
- 調査期間 令和3年8月10日～令和3年8月24日

## 3. 回収の結果

	件数	回収数	割合
全体	2,000	994	49.7%
10代	300	16	5.3%
20代	300	63	21.0%
30代	300	113	37.7%
40代	300	147	49.0%
50代	300	140	46.7%
60代	300	182	60.7%
70歳以上	500	315	63.0%
有効回収数		992	49.6%

## 4. 報告書の見方

- 回答は、各設問の回答者数（計）を基数とした百分率（％）で示している。  
小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合がある。
- 複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超える。
- 回答があっても、小数点第2位を四捨五入して0.1%に満たない場合は、表・グラフには「0.0」と表記している。
- 表・グラフにおいて、回答選択肢を簡略化して表記している場合がある。





---

## 第 2 部

### 調 査 結 果

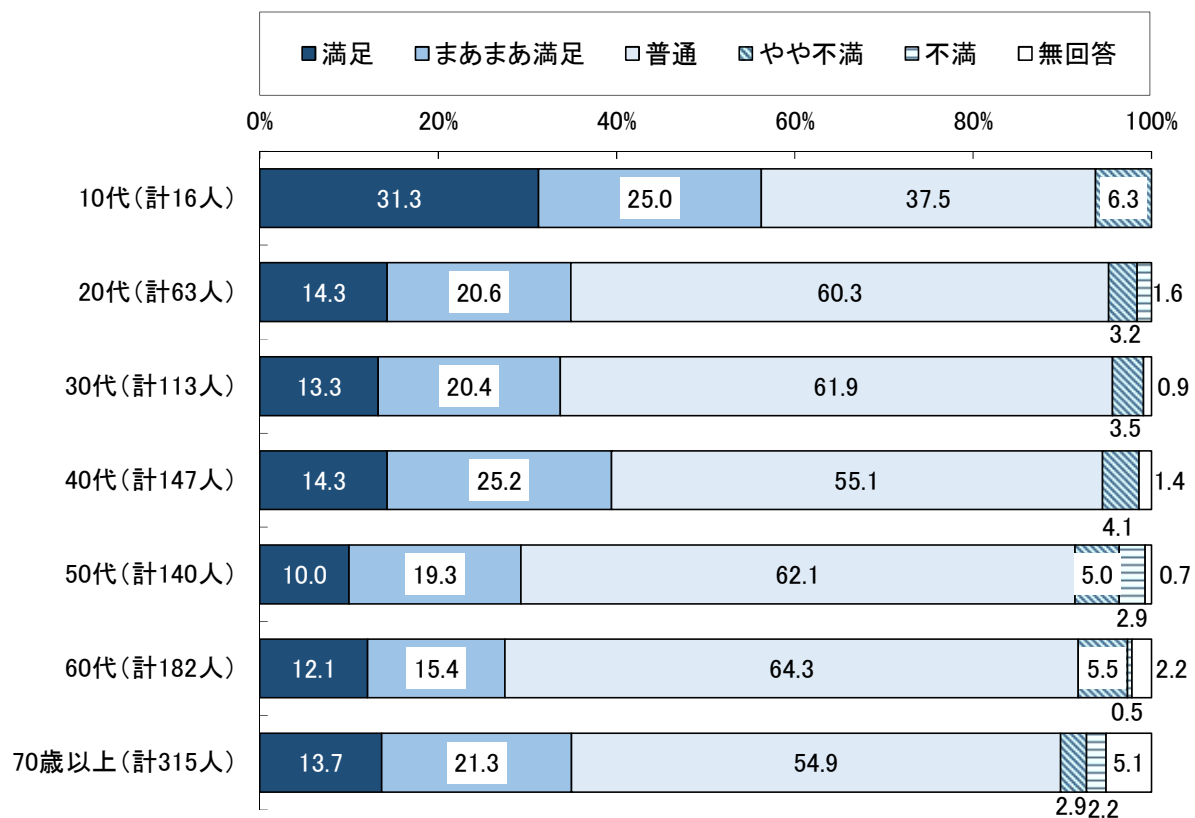
---



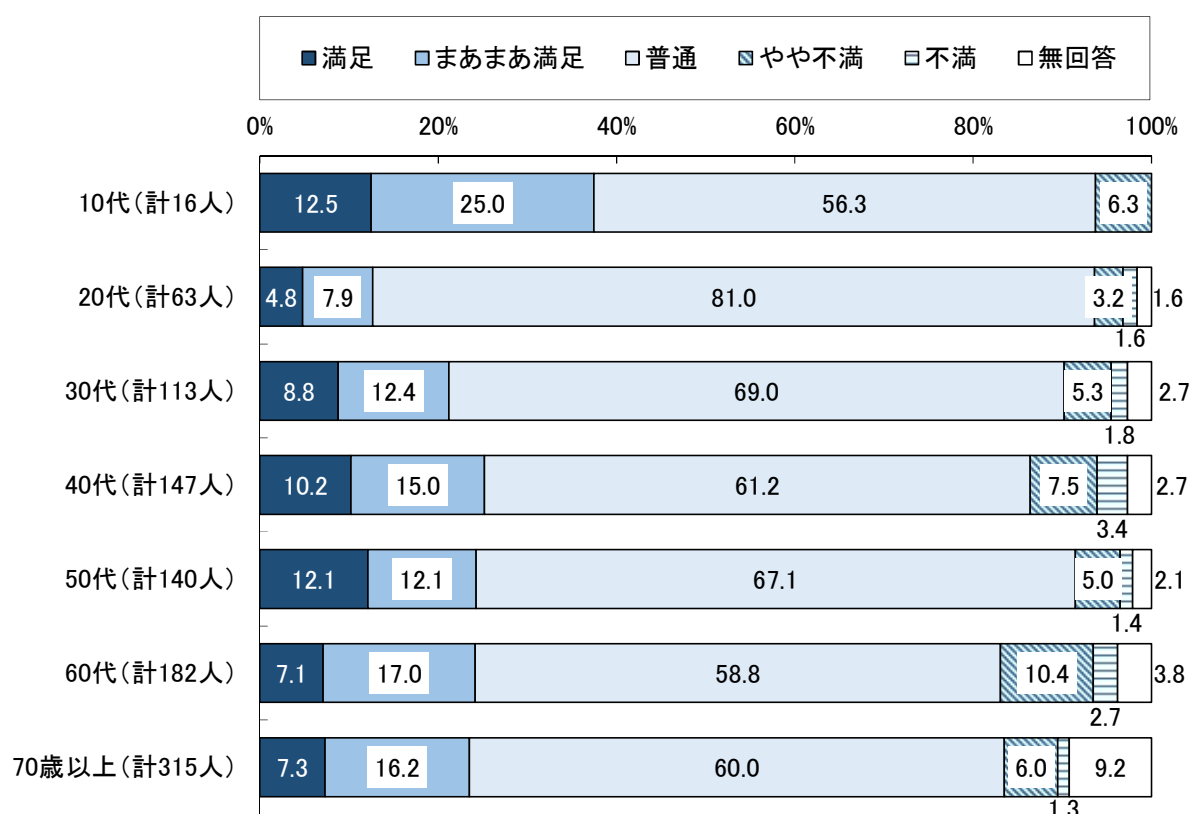
## 1. 地域での暮らしについて

問1 あなたがお住まいの地域の暮らしやすさはいかがですか。

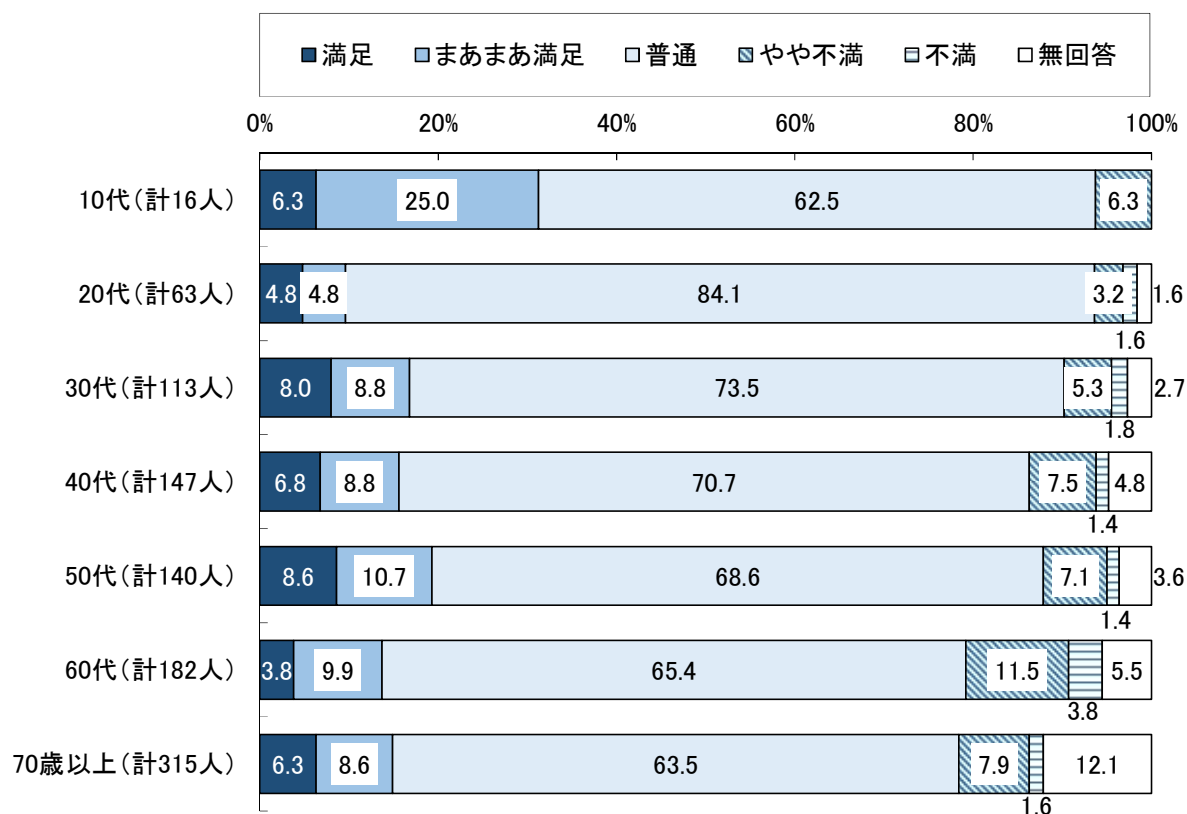
地域の暮らしやすさ【①近所との付き合い×年代】



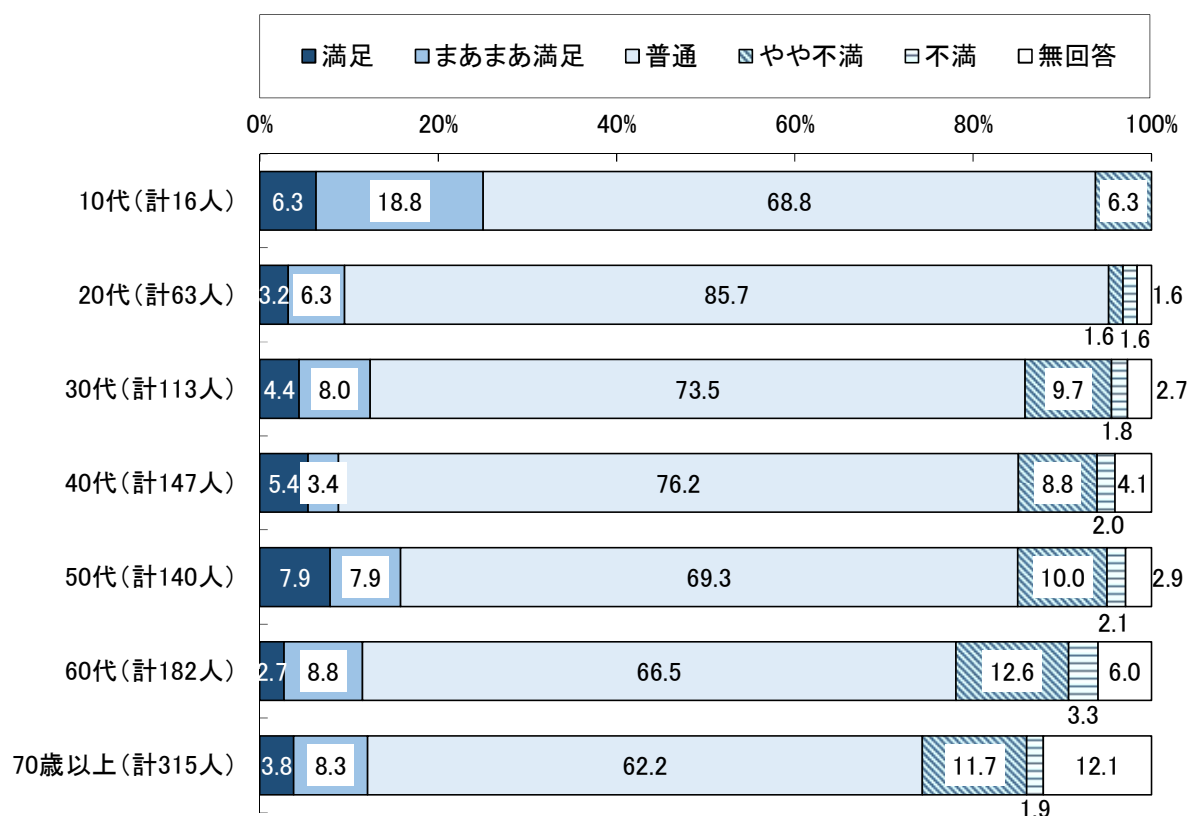
【②行政区の活動（夏祭り、運動会、敬老会等）×年代】



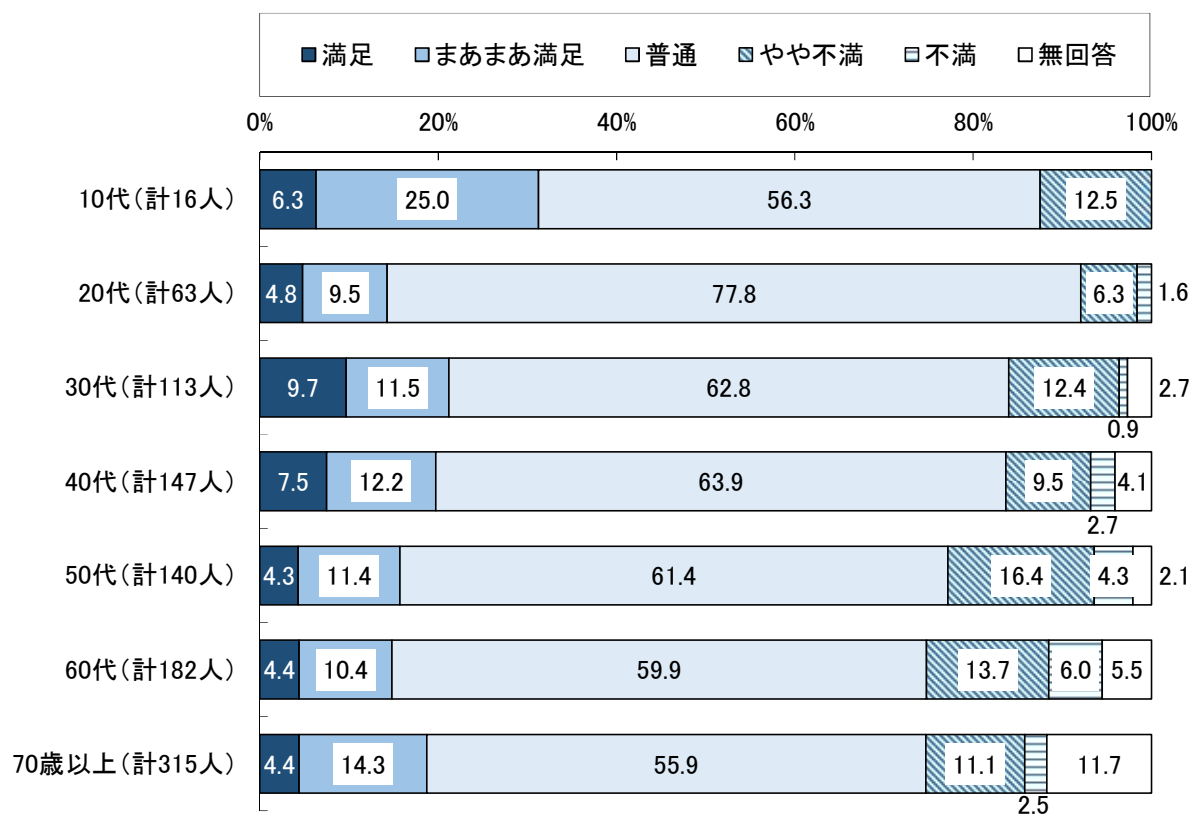
【③地域福祉の活動（サロン活動やボランティア等）×年代】



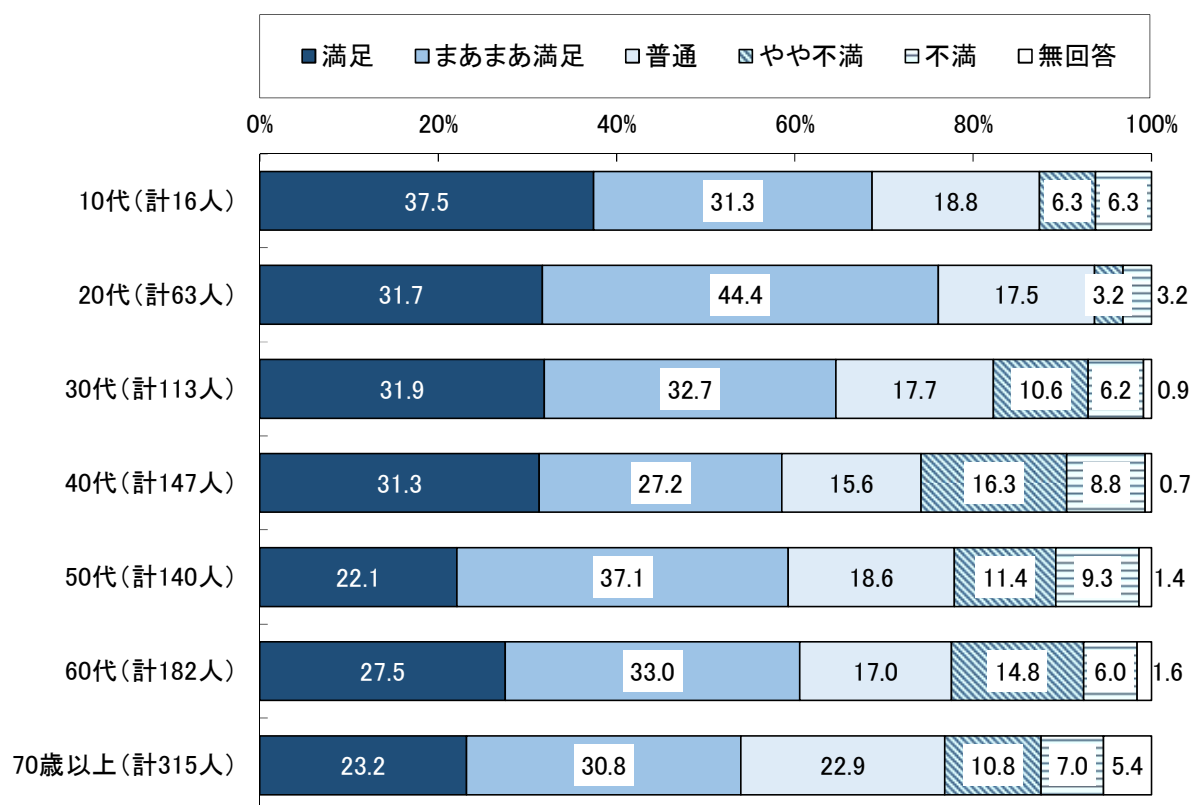
【④公民館等で行われる文化教養活動×年代】



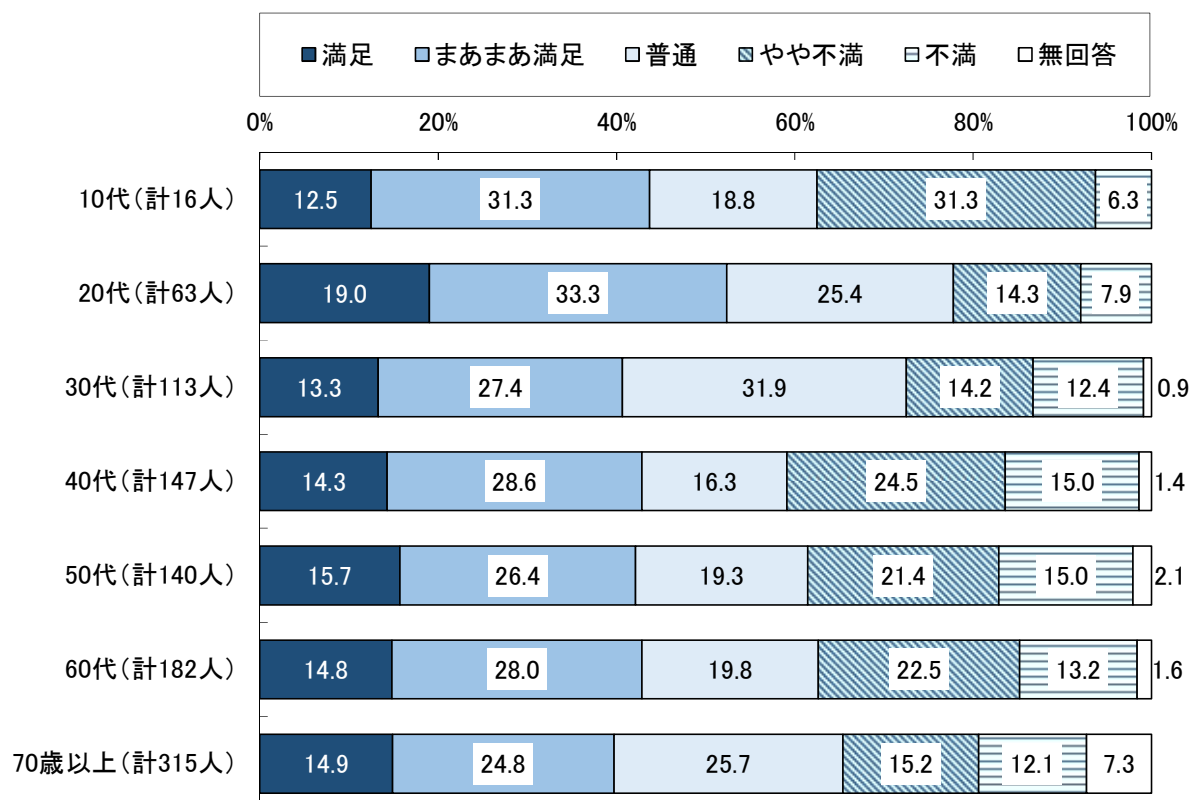
【⑤保健・福祉の情報提供・相談体制×年代】



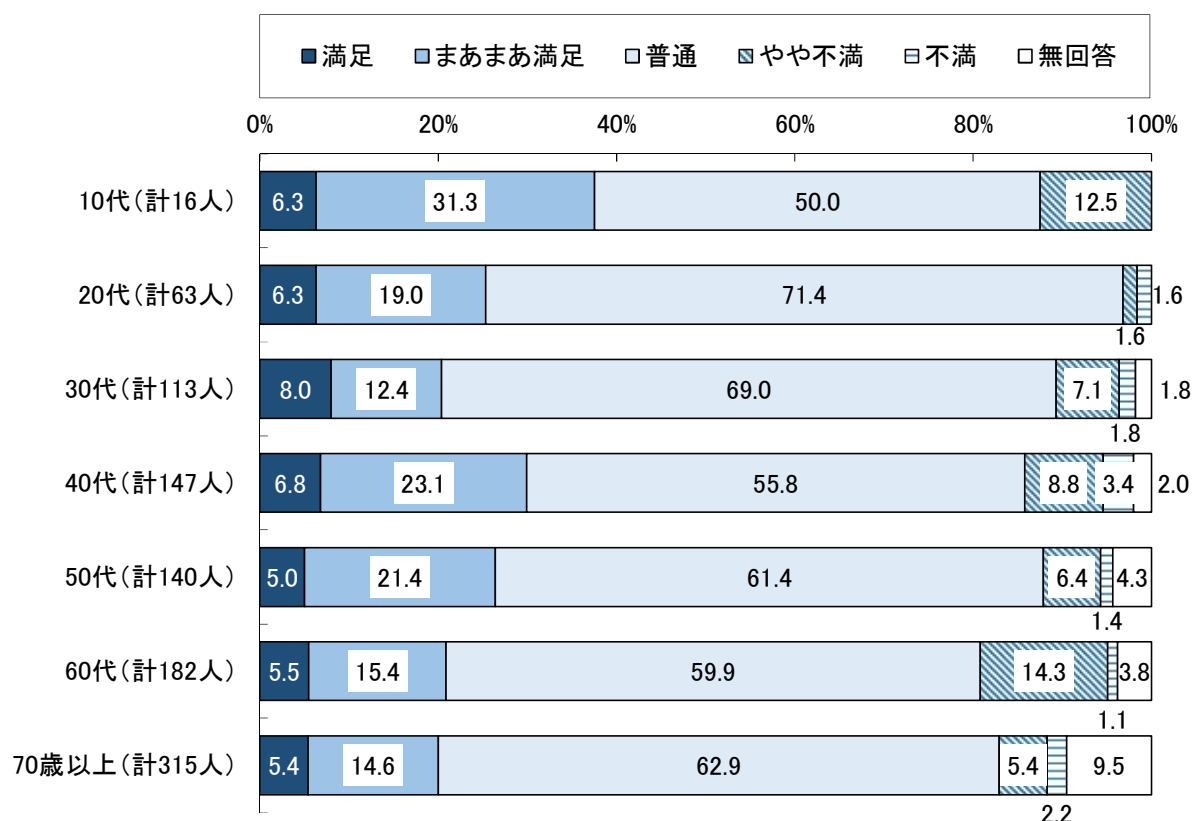
【⑥買い物などの便利さ×年代】



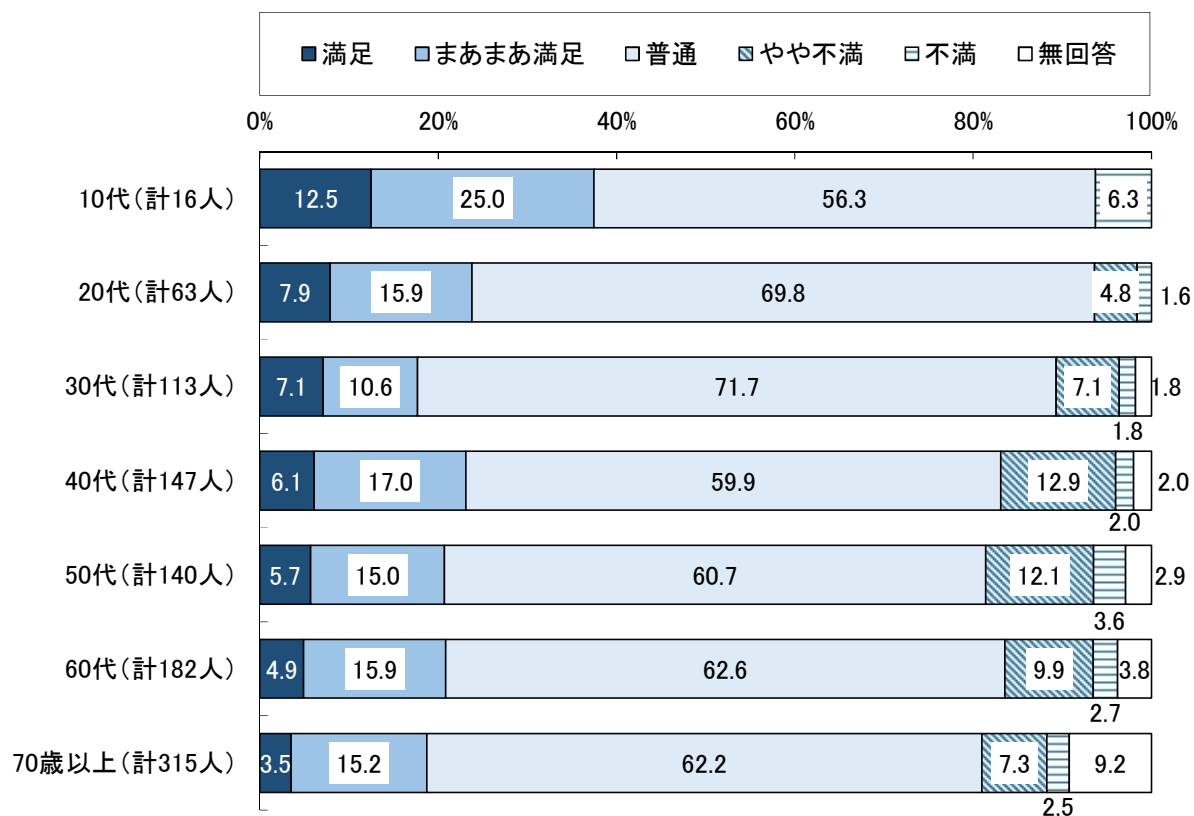
【⑦交通などの便利さ（公共交通機関・道路状況）×年代】



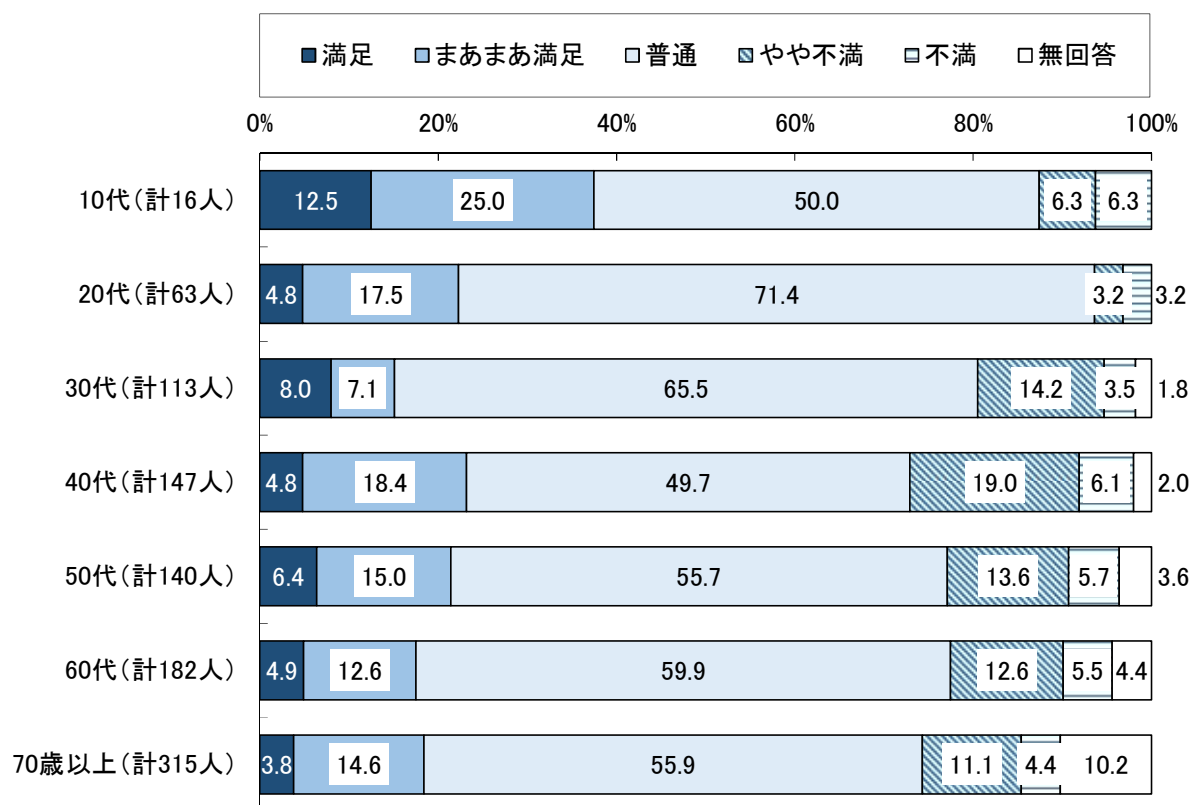
【⑧地域の防災×年代】



【⑨地域の防犯×年代】



【⑩地域の交通安全対策×年代】

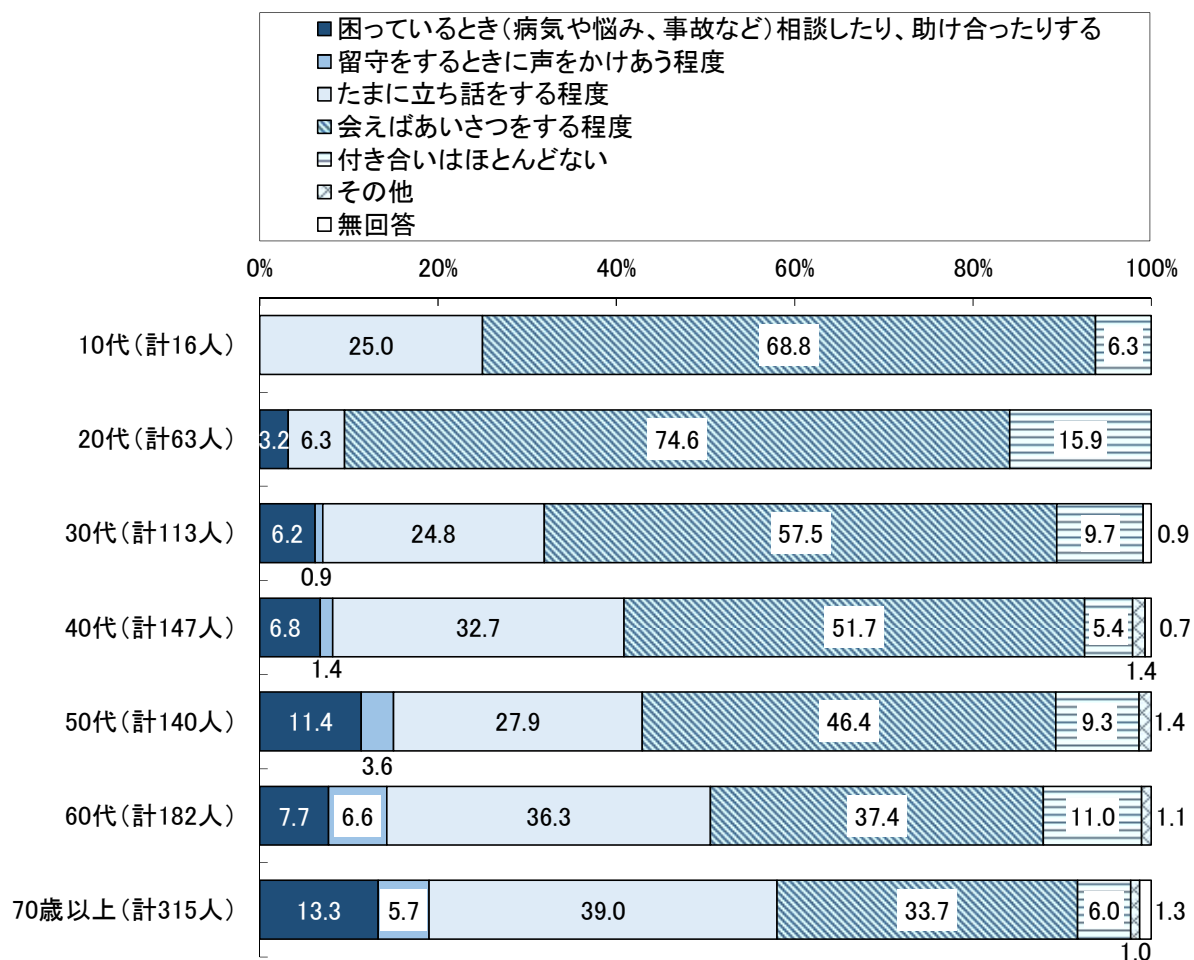


- お住いの地域の暮らしやすさについては、いずれの年代でも「⑥買い物などの便利さ」で『満足』（「満足」＋「まあまあ満足」）の割合が最も高く、このほか「①近所との付き合い」「⑦交通などの便利さ（公共交通機関・道路状況）」でも割合が高くなっています。
- 「⑦交通などの便利さ（公共交通機関・道路状況）」では『不満』（「不満」＋「やや不満」）の割合も高くなっており、特に40代以降の年齢層でその傾向が強くなっています。



問2 あなたは日頃、近所の人とどのような付き合い方をしていますか。

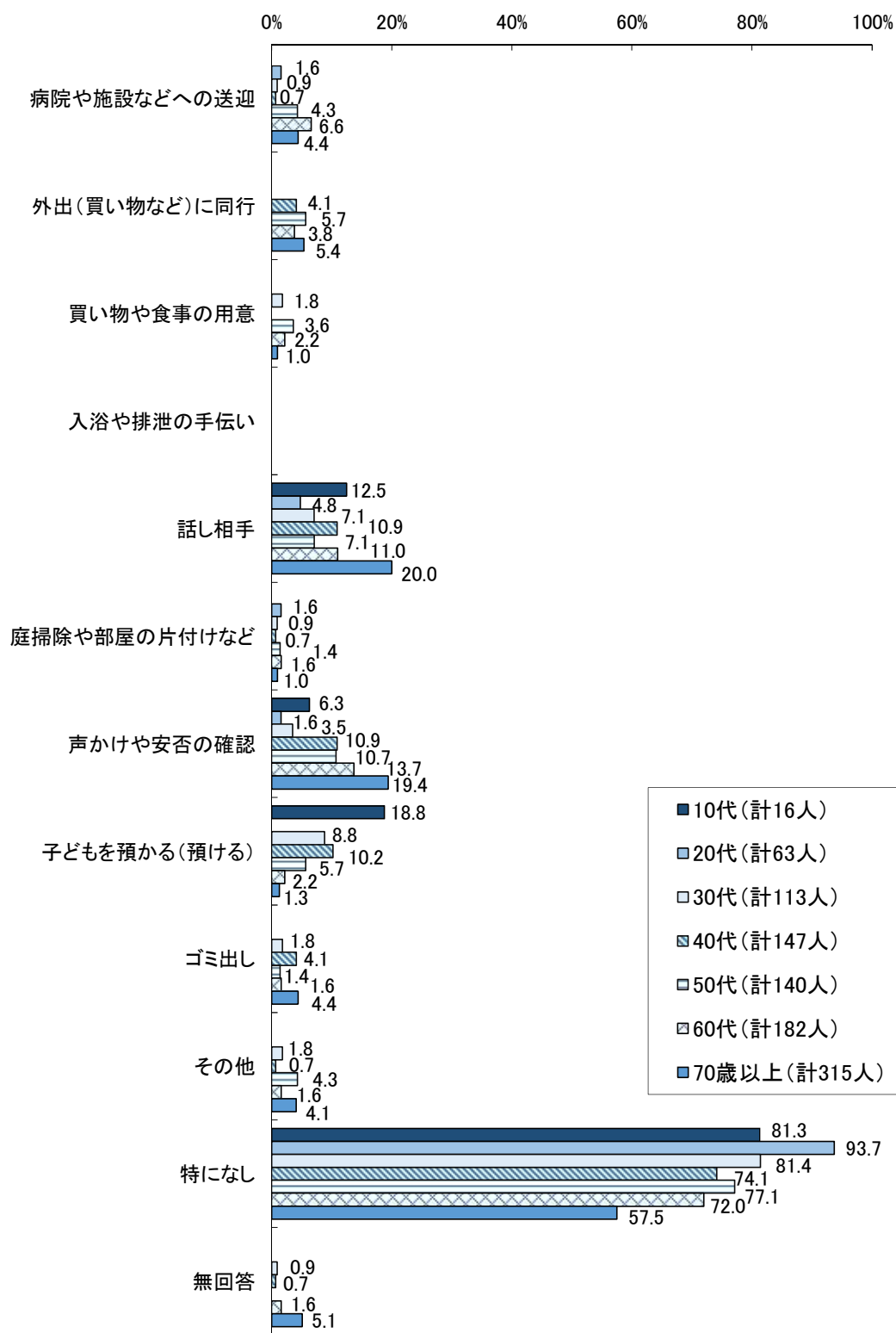
【近所の人との付き合い方×年代】



- 日頃、近所の人とどのような付き合いをしているか質問した結果をみると、若い年代ほど「会えばあいさつをする程度」の割合が高く、一方で「困っているとき(病気や悩み、事故など)相談したり、助けあったりする」「留守をするときに声をかけあう程度」「たまに立ち話をする程度」などでは、年代とともに高くなる傾向にあります。

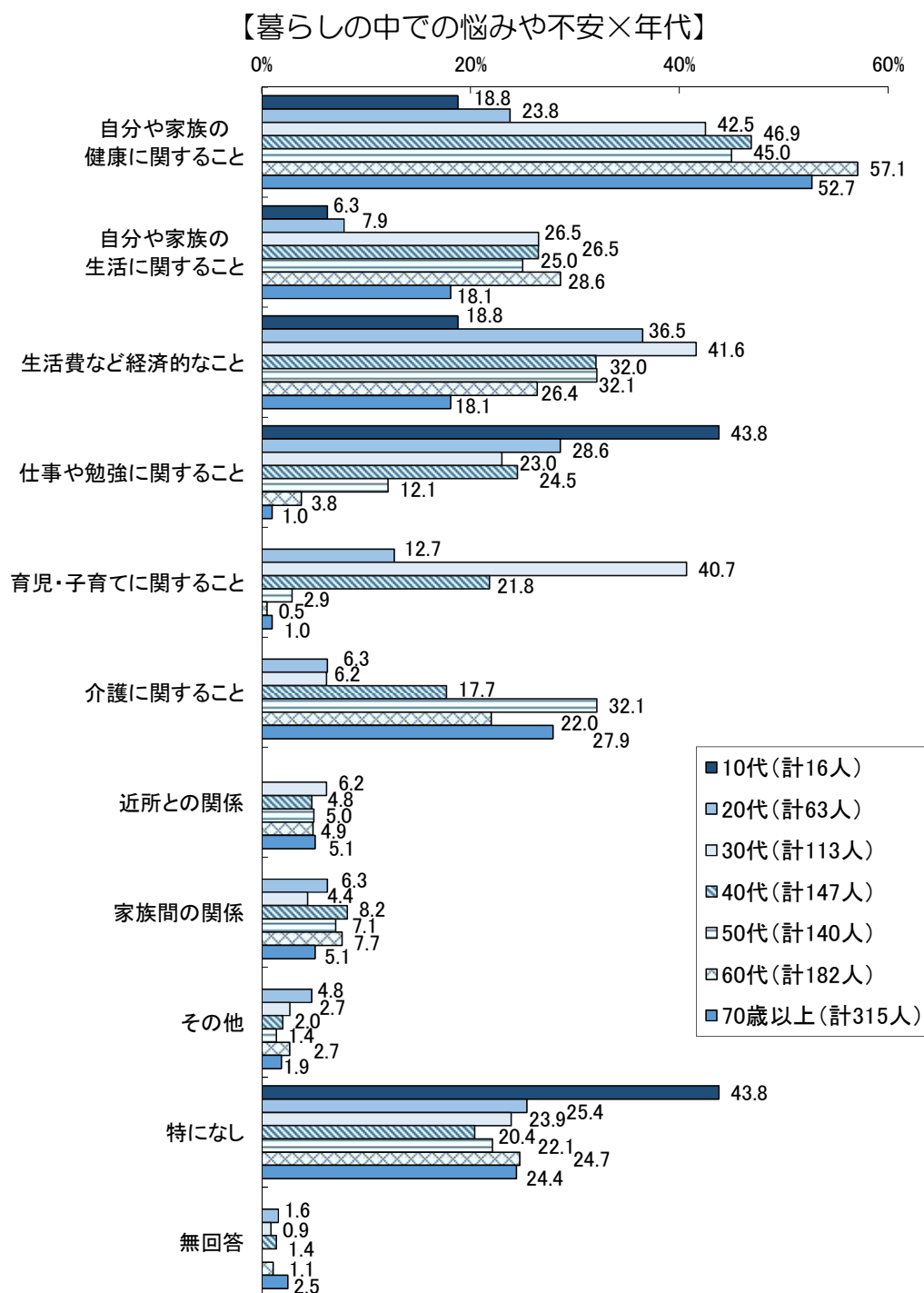
問3 あなたは、近所の人に何か頼んだり頼まれたりしたことはありますか。  
したことがあるものを選んでください。

【近所の人に頼んだり頼まれた経験×年代】



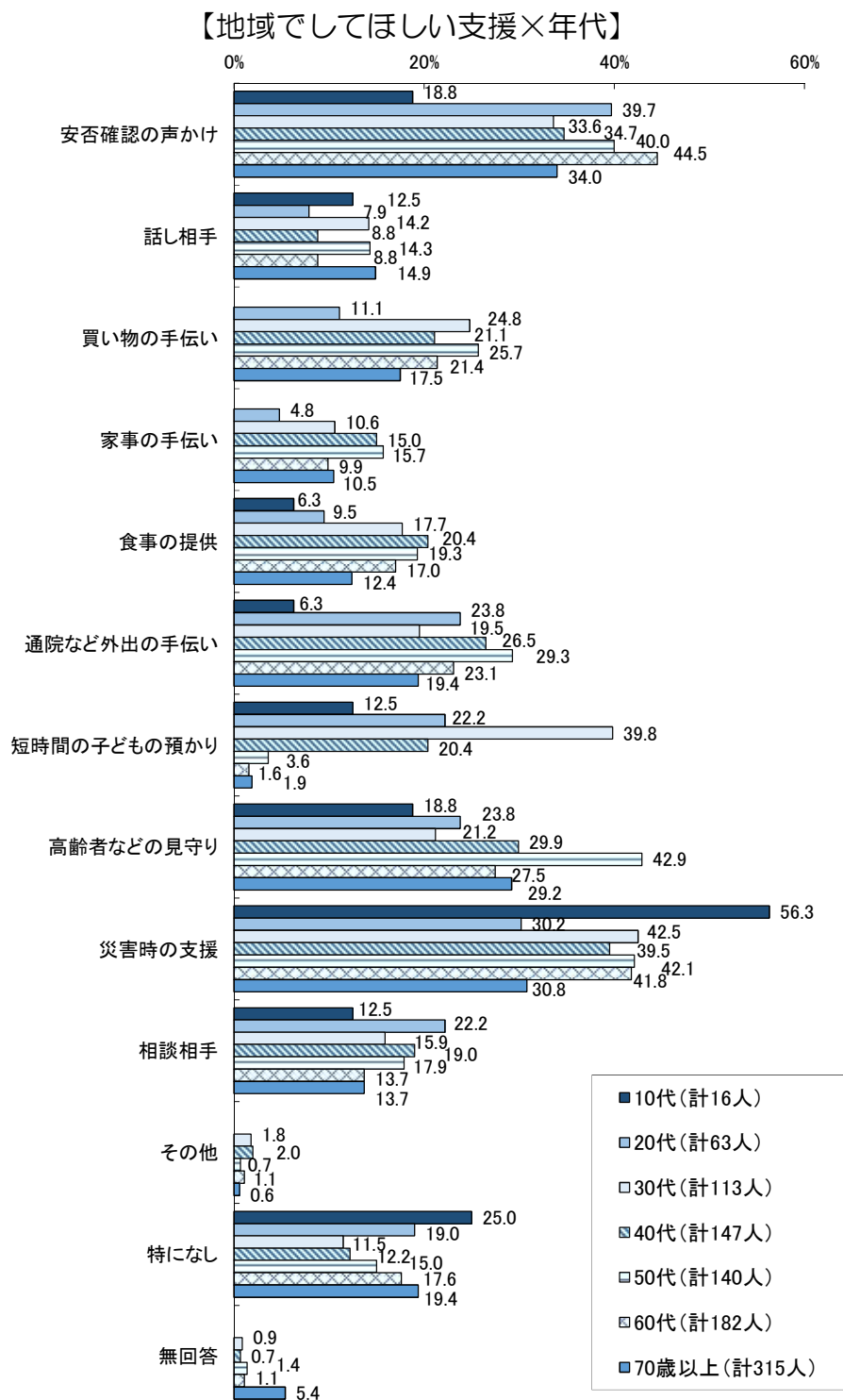
- 近所の人から何か頼んだり、頼まれたりしたことの内容では、いずれの年代でも「特になし」と回答した人が多く、特に 20 代では 93.7%と他に比べ高く、10 代、30 代でも 8 割台と高い割合を占めています。
- 具体的な内容をみると、70 歳以上では「話し相手」「声かけや安否の確認」などの割合が他に比べて高く、10 代では「話し相手」「子どもを預ける（預かる）」などの割合が高くなっています。

問4 あなたは、毎日の暮らしの中で、次のどのようなことに悩みや不安を感じていますか。



- 毎日の暮らしの中で、どのようなことに悩みや不安を感じているか質問した結果、10代では「特になし」とともに「仕事や勉強に関すること」の割合が最も高く、20代では「生活費など経済的なこと」、このほかではいずれも「自分や家族の健康に関すること」の割合が最も高くなっています。
- 30代では「生活費など経済的なこと」(41.6%)、「育児・子育てに関すること」(40.7%)、50代では「介護に関すること」(32.1%)の割合が、他に比べ高くなっています。

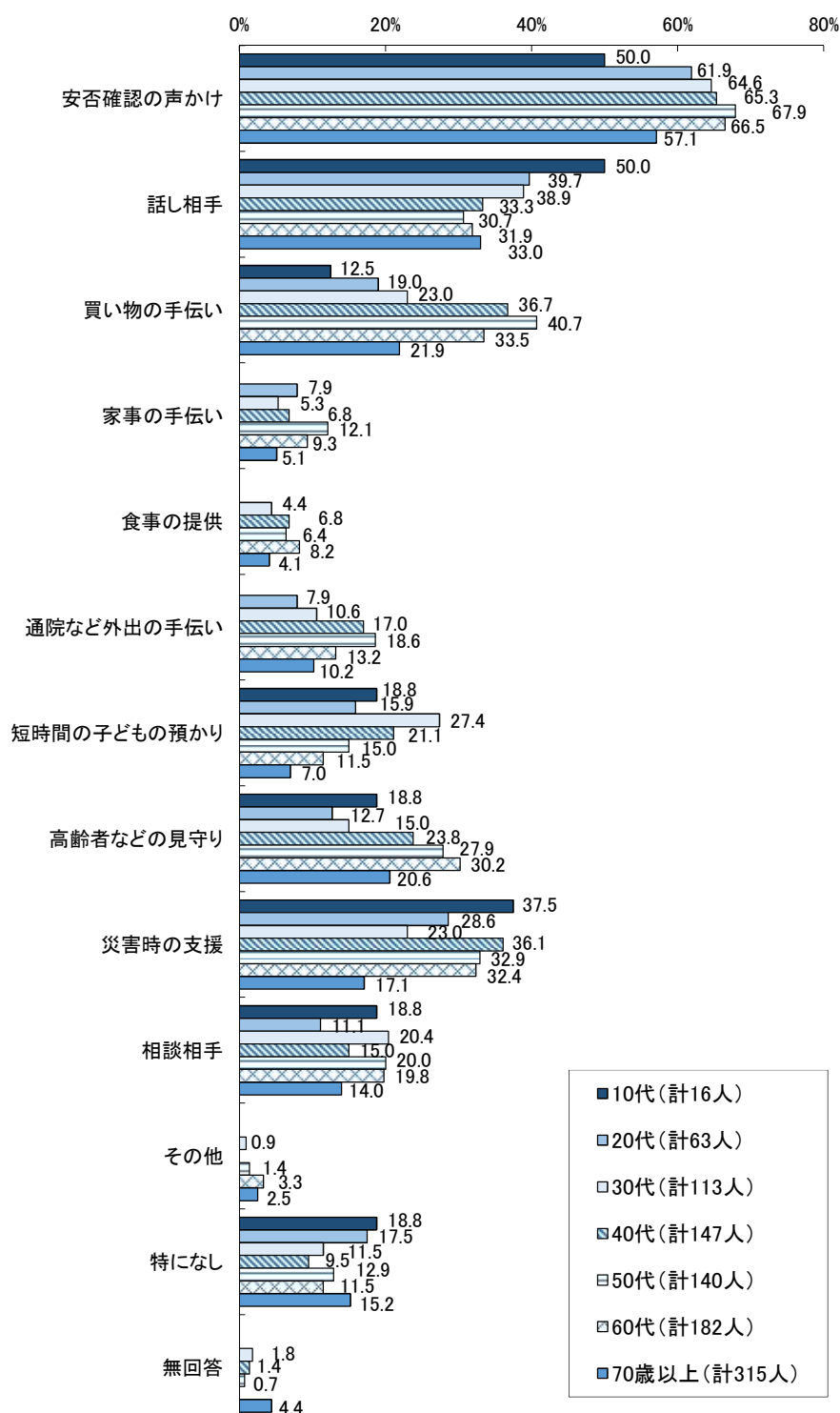
問5 あなたやご家族が、高齢や病気もしくは子育て等で日常生活に支障が出たとき、地域でどのような支援をしてほしいと思いますか。



- 日常生活に支障が出たときに地域に求める支援としては、10代及び30代から50代では「災害時の支援」、20代及び60代、70歳以上では「安否確認の声かけ」、50代では「高齢者などの見守り」など、緊急時や災害時の支援、安否確認などが高い割合を占めています。
- 「短時間の子どもの預かり」では30代の割合が、他に比べ高くなっています。

問6 隣近所に、高齢者や障がいのある人の介護、子育てなどで困っている家庭があった場合、あなたはどのような支援ができると思いますか。

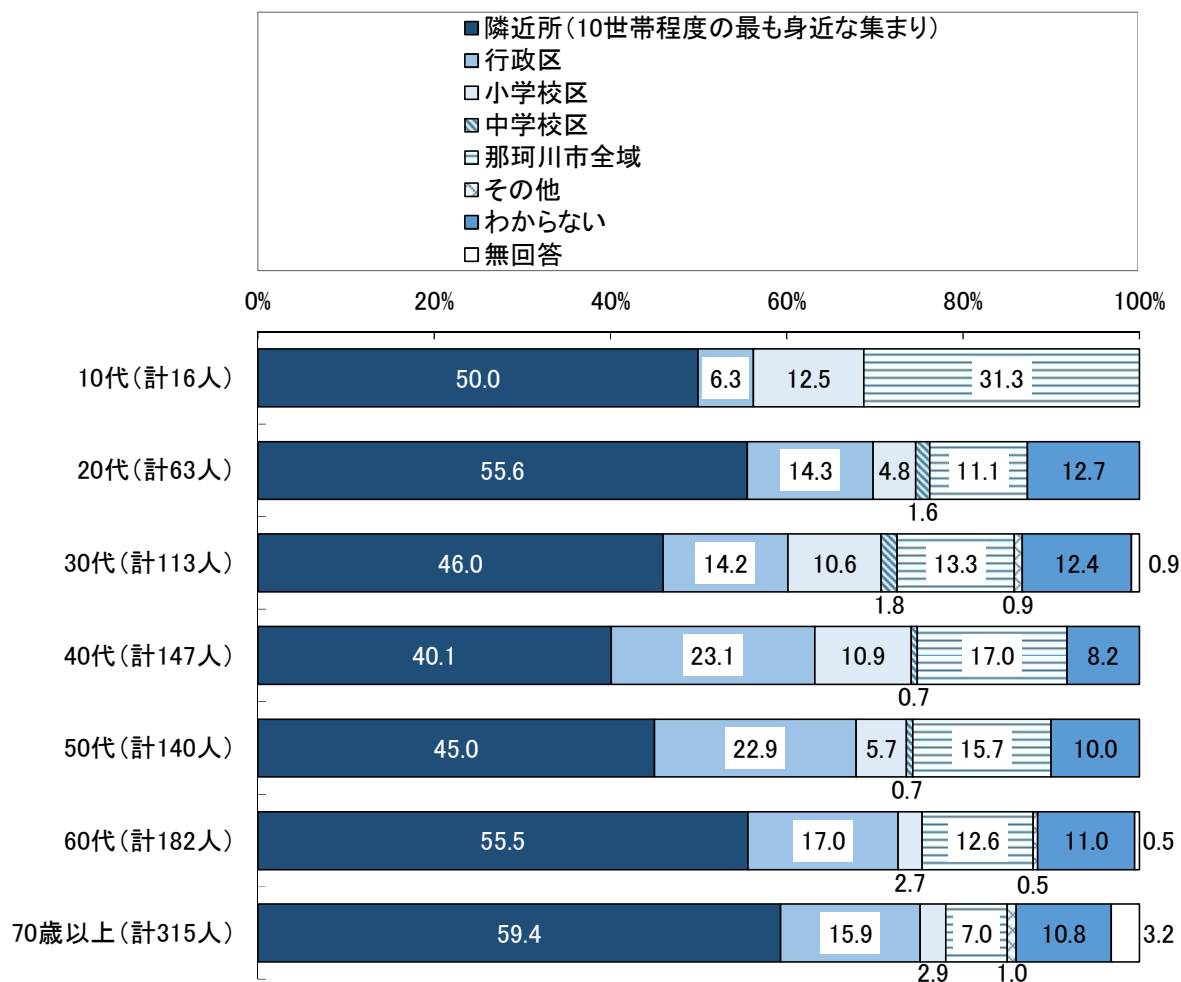
【困っている家庭へできる支援×年代】



- 困っている家庭にできる支援としては、いずれの年代でも「安否確認の声かけ」の回答が最も多くなっています（10代では「話し相手」も同率）。
- 「買い物の手伝い」「高齢者などの見守り」「災害時の支援」などでは、40～60代の年齢層の割合が他に比べ高くなっています。

問7 あなたにとって、住民が助け合うべき「地域」とはどの範囲のことをいいますか。

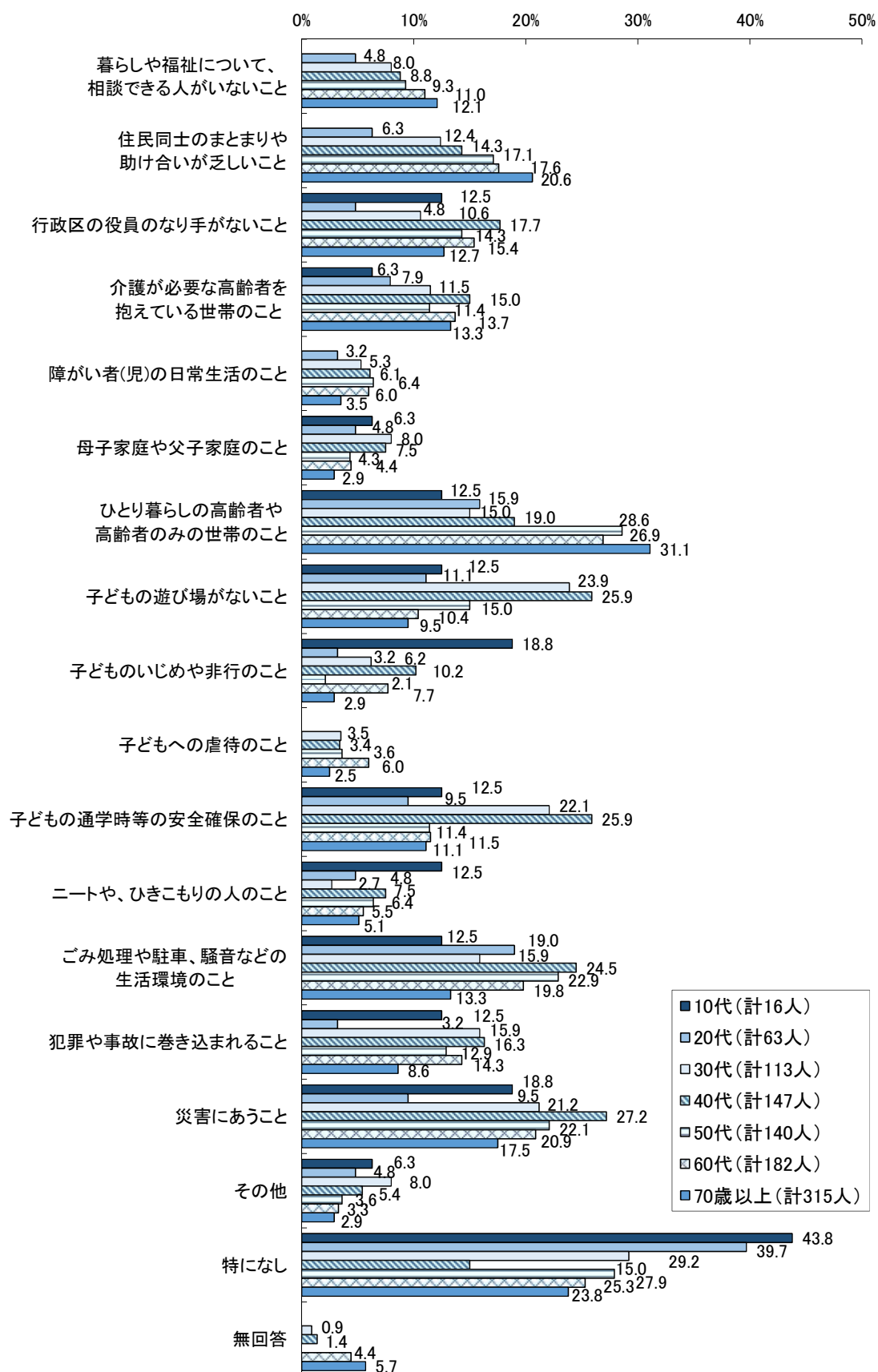
【助け合うべき「地域」の範囲×年代】



- 住民が助け合うべき地域の範囲では、いずれの年代も「隣近所（10世帯程度の最も身近な集まり）」での回答が最も多くなっています。
- 40代、50代では、「行政区」の割合も、他の年代に比べ高くなっています。

問8 あなたが住んでいる地域のことで「問題と感じていること」は何ですか。

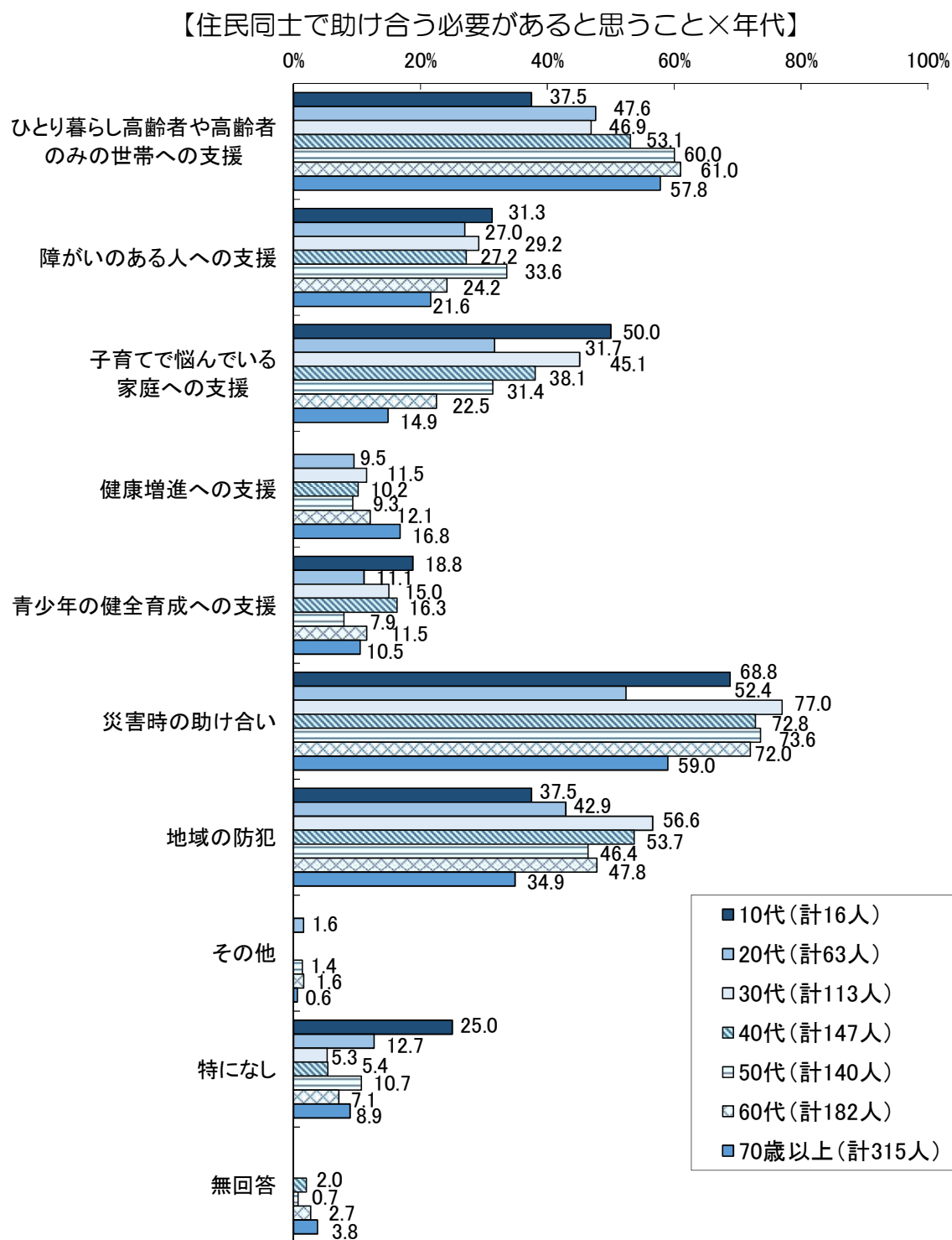
【地域で「問題と感じていること」×年代】





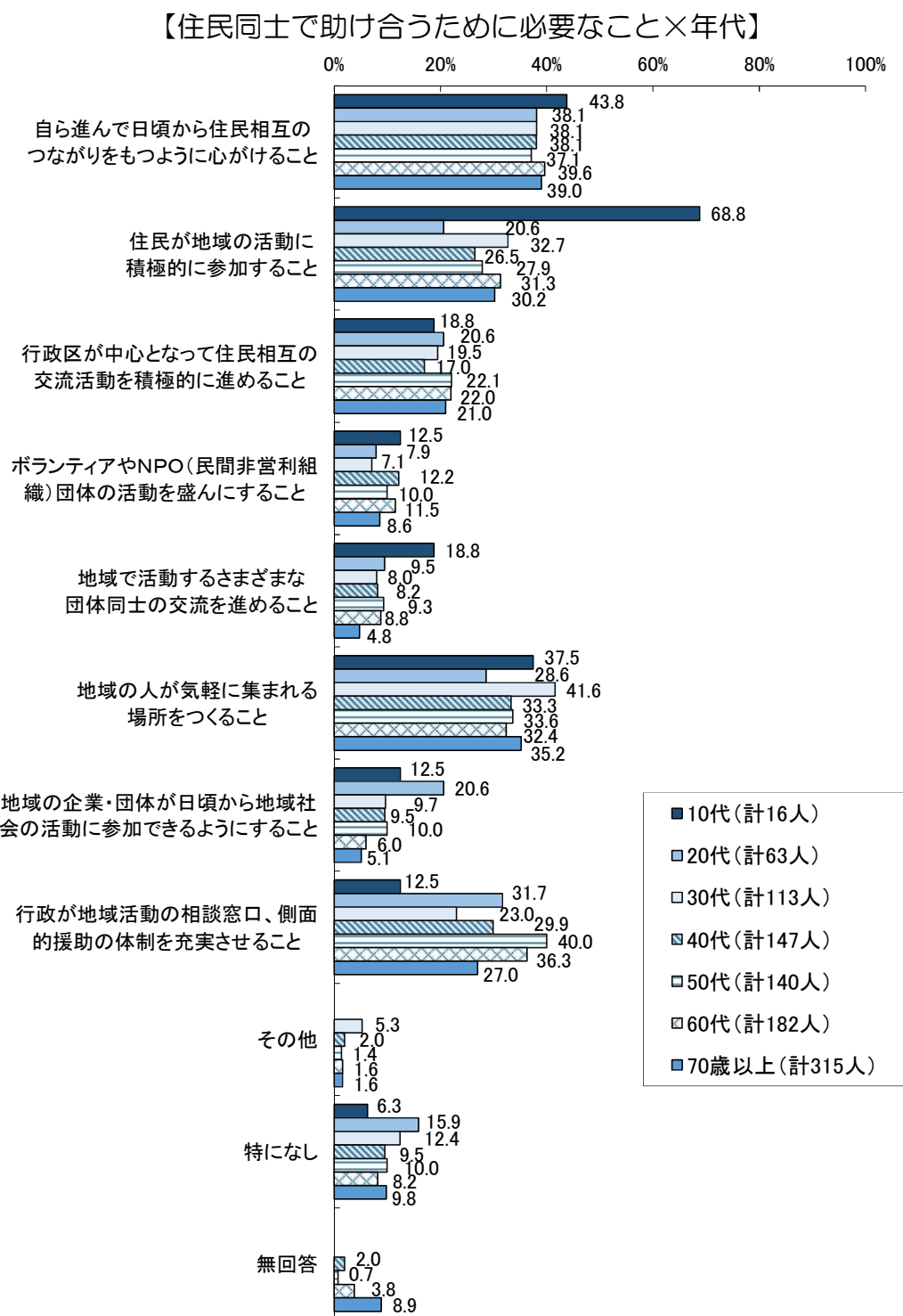
- 住んでいる地域で問題と感じていることでは、10代から30代では「特になし」との回答が最も多く、40代では「子どもの通学時等の安全確保のこと」、50代以上の年代では「ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯のこと」が最も多くなっています。
- このほか「災害に合うこと」で全体に割合が高く、「子どもの遊び場がないこと」「子どもの通学時等の安全のこと」では、30代、40代で割合が高くなっています。

問9 地域における暮らしの中でおこる生活上の問題に対して、住民同士で助け合う必要があると思うことは何ですか。



- 住民同士で助け合う必要がある問題としては、いずれの年代でも「災害時の助け合い」との回答が最も多くなっています。
- 「ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯への支援」「地域の防犯」なども全体に割合が高く、このほか10代、30代では「子育てで悩んでいる家庭への支援」の割合が他に比べて高くなっています。

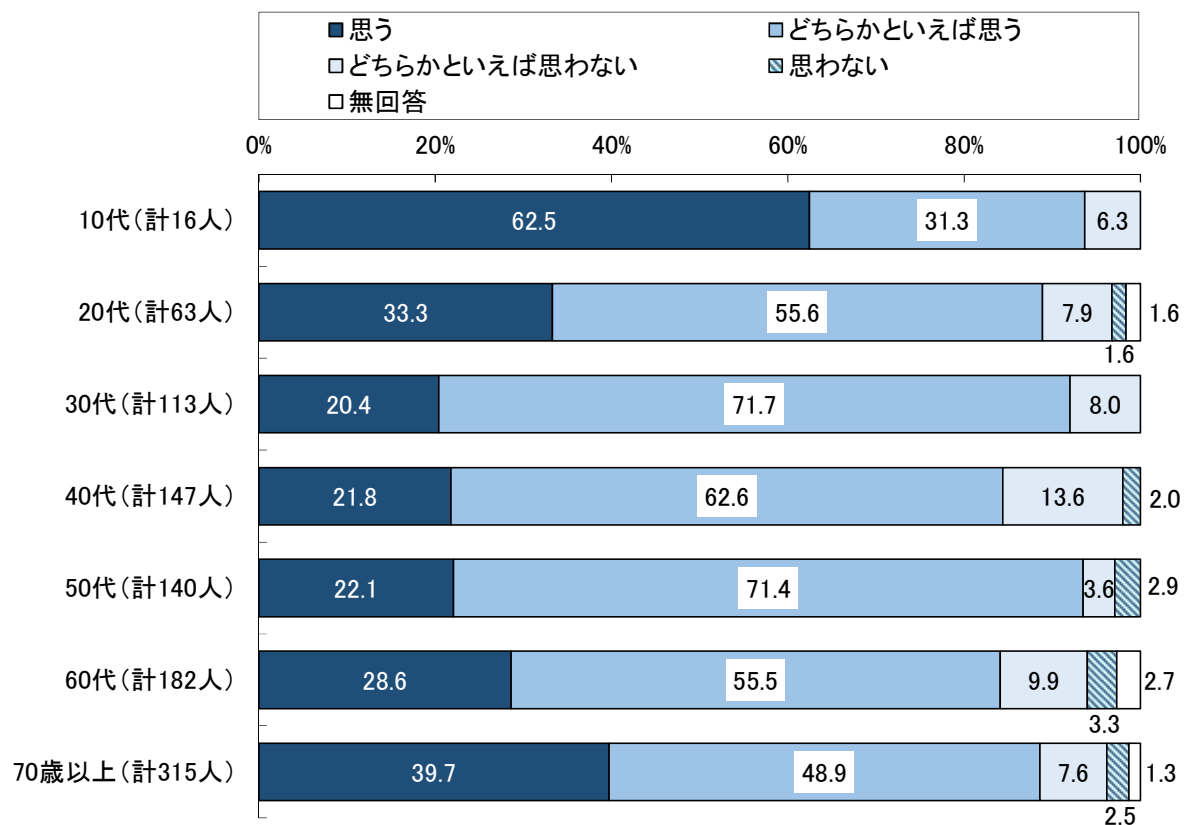
問10 地域社会の問題に対して住民同士で助け合うためには、どのようなことが必要だと考えますか。



- 住民同士で助け合うために必要なことでは、10代で「住民が地域の活動に積極的に参加すること」との回答が最も多く、30代では「地域の人々が気軽に集まれる場所をつくること」、50代では「行政が地域活動の窓口、側面的援助の体制を充実させること」、このほかでは「自ら進んで日頃から住民相互のつながりをもつように心がけること」での回答が最も多くなっています。

問 1 1 那珂川市は誰もが安心して暮らすことができる「住みやすいまち」であると思いますか。

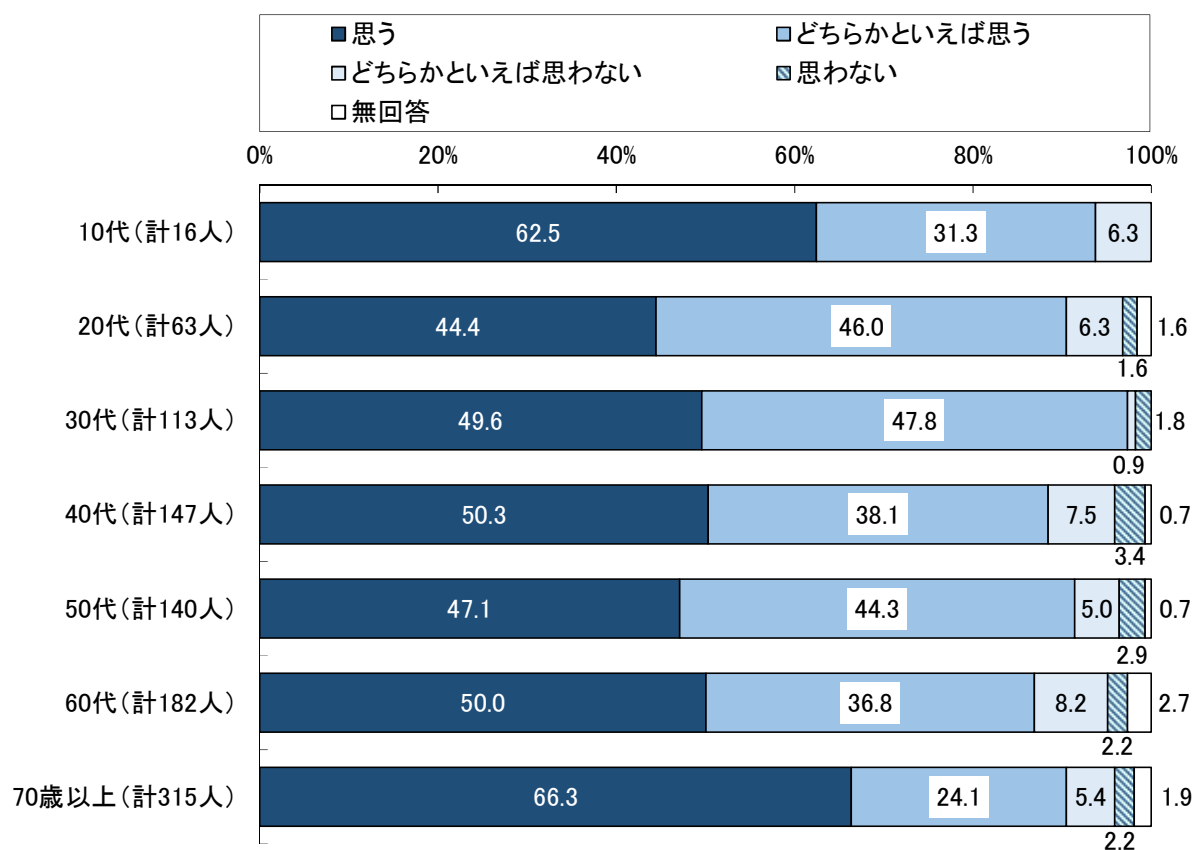
【那珂川市は「住みやすいまち」であると思うか×年代】



- 那珂川市は住みやすいまちであるかについて、10代では「思う」との回答が最も多く、他の年代ではいずれも「どちらかといえば思う」が多くなっています。
- 『思う』『思わない』で比較すると、いずれの年代も『思う』の割合が8割を超えています。

問12 今後も那珂川市に住み続けたいと思いますか。

【今後も那珂川市に住みたいと思うか×年代】

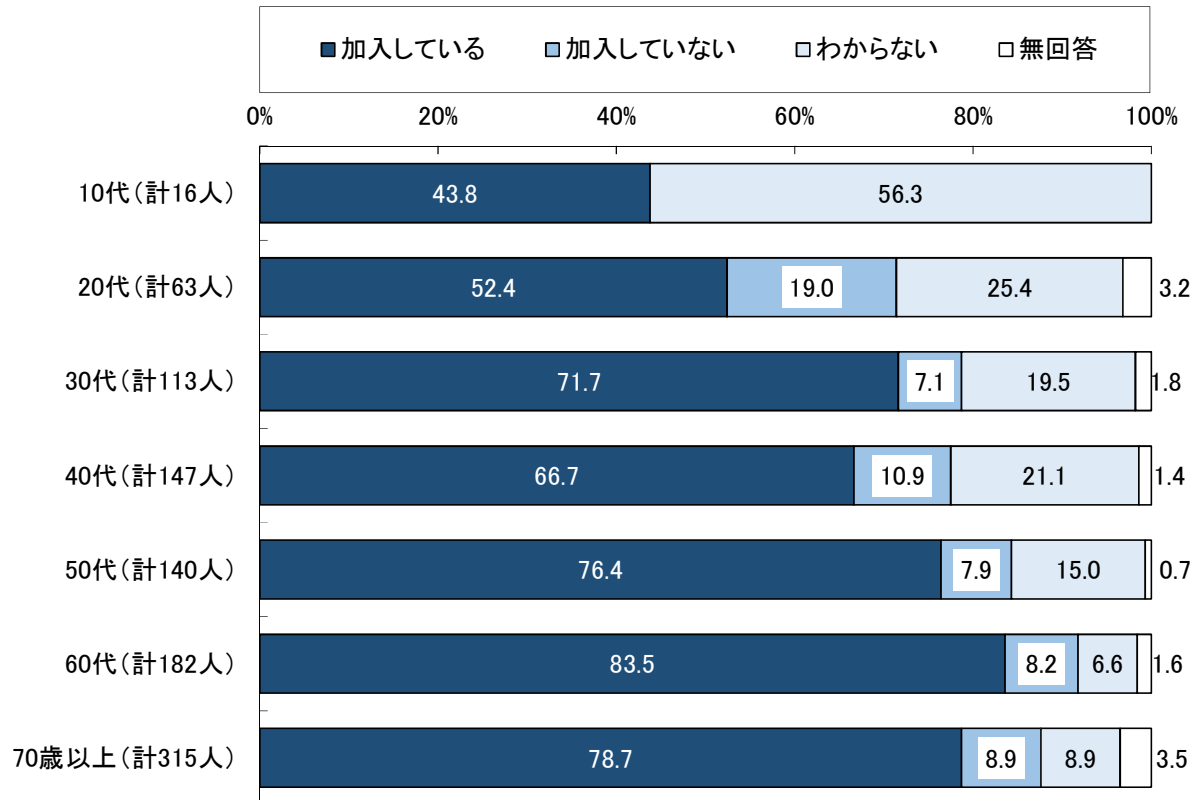


- 今後も那珂川市に住み続けたいと思うかについては、いずれの年代も「思う」との回答が多く、10代（62.5%）、70歳以上（66.3%）では6割を超えています
- 『思う』『思わない』で比較すると、いずれも『思う』の割合が8割を超えており、30代では97.4%と最も高い割合となっています。

## 2. 地域活動への参加について

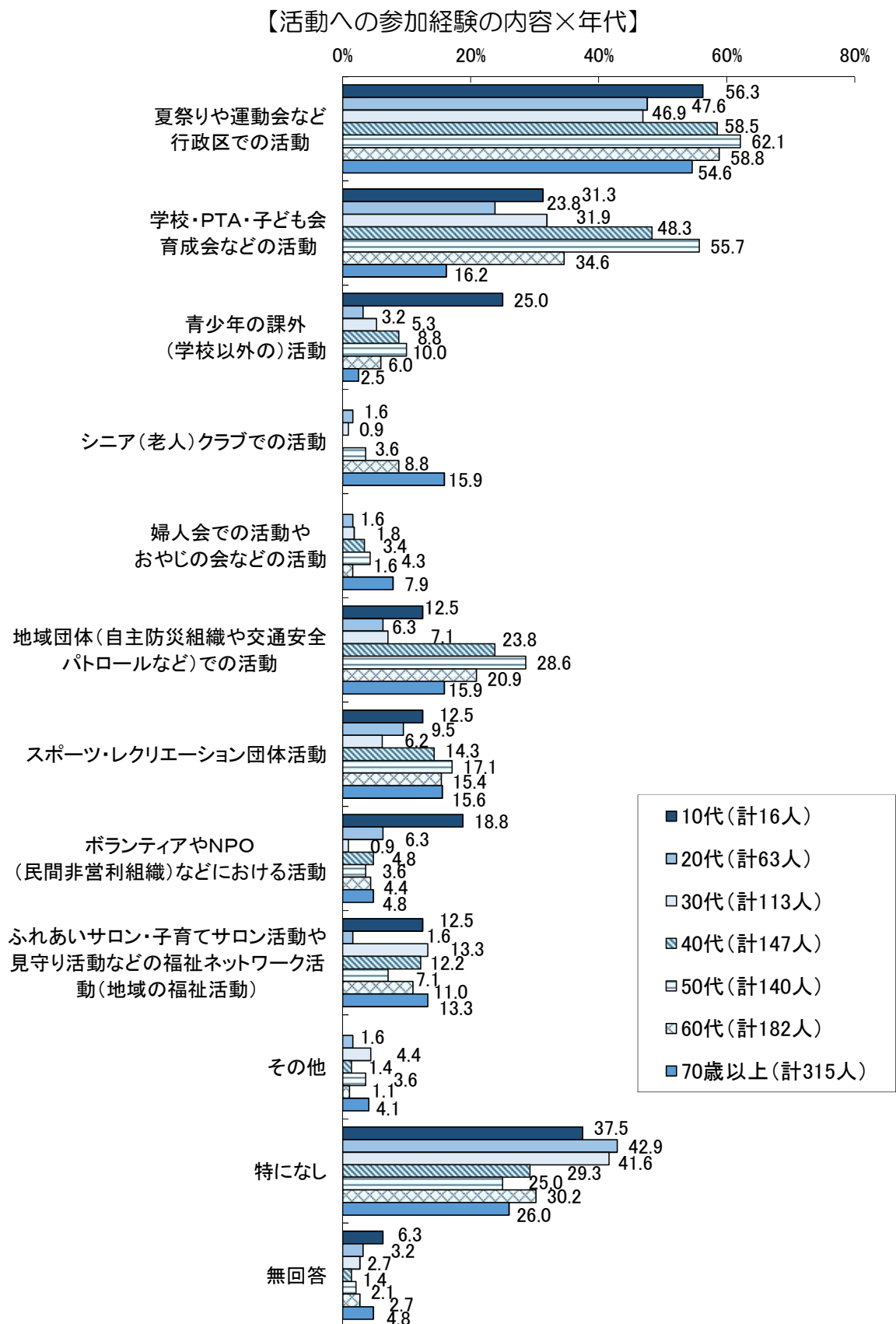
問13 あなたの世帯は自治会に加入していますか。

【自治会への加入状況×年代】



- 年齢別にみると、20代以上の年齢層では「加入している」での回答が最も多くなっています。
- 30歳代以上で「加入している」の割合が高く、60代では8割を超える人が自治会に加入しています。

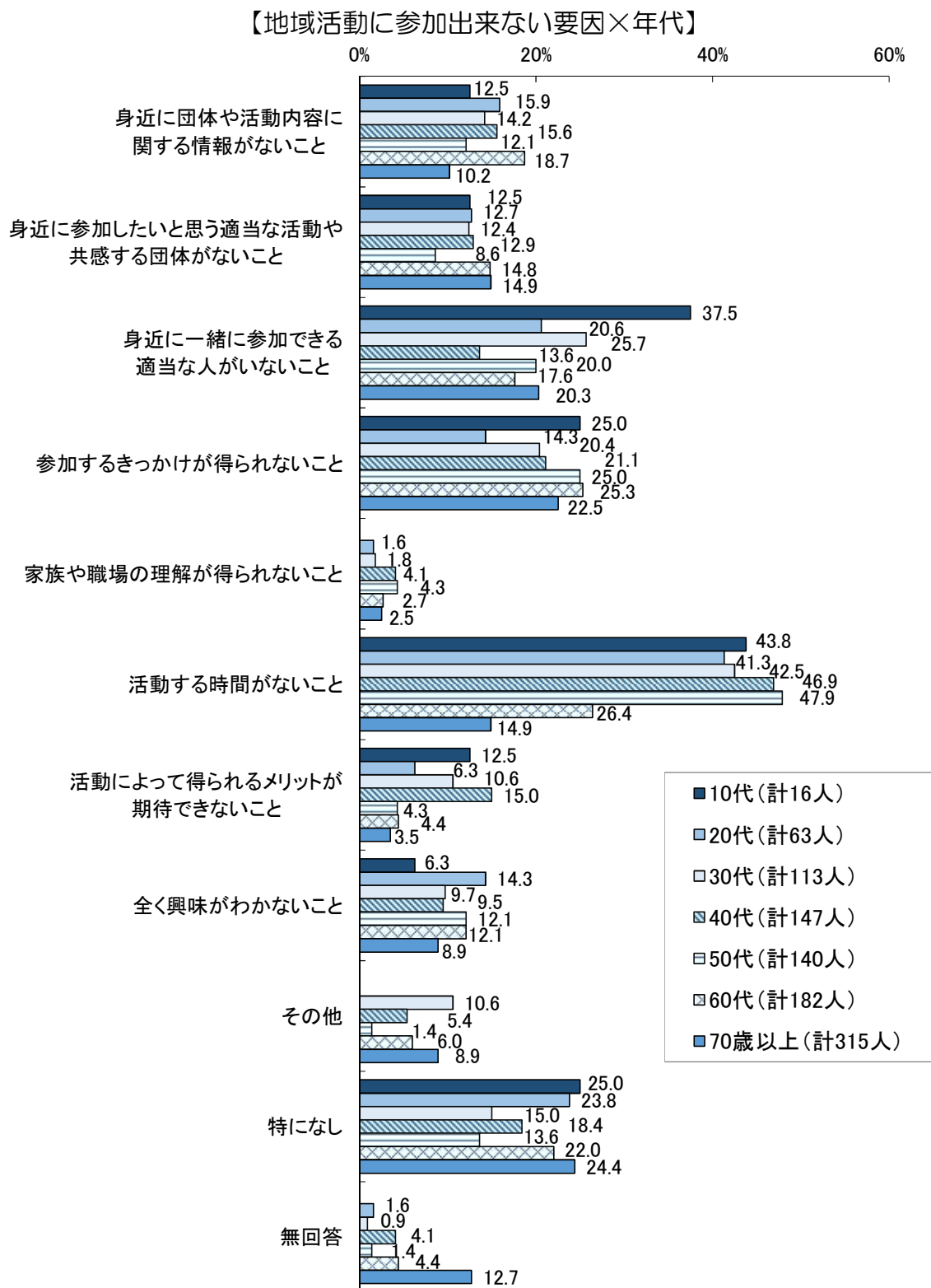
問14 行政区などの活動に参加していますか。参加したことがあるものを選んでください。



- 行政区などの活動への参加については、いずれの年代も「夏祭りや運動会など行政区での活動」での回答が最も多くなっています。
- 40～50代では「学校・PTA・子ども会育成会などの活動」「地域団体（自主防災組織や交通安全パトロールなど）での活動」の割合も、他に比べ高くなっています。
- 10～30代では「特になし」と回答した人が4割前後を占め、地域活動に参加していない人の割合が、他に比べ高くなっています。



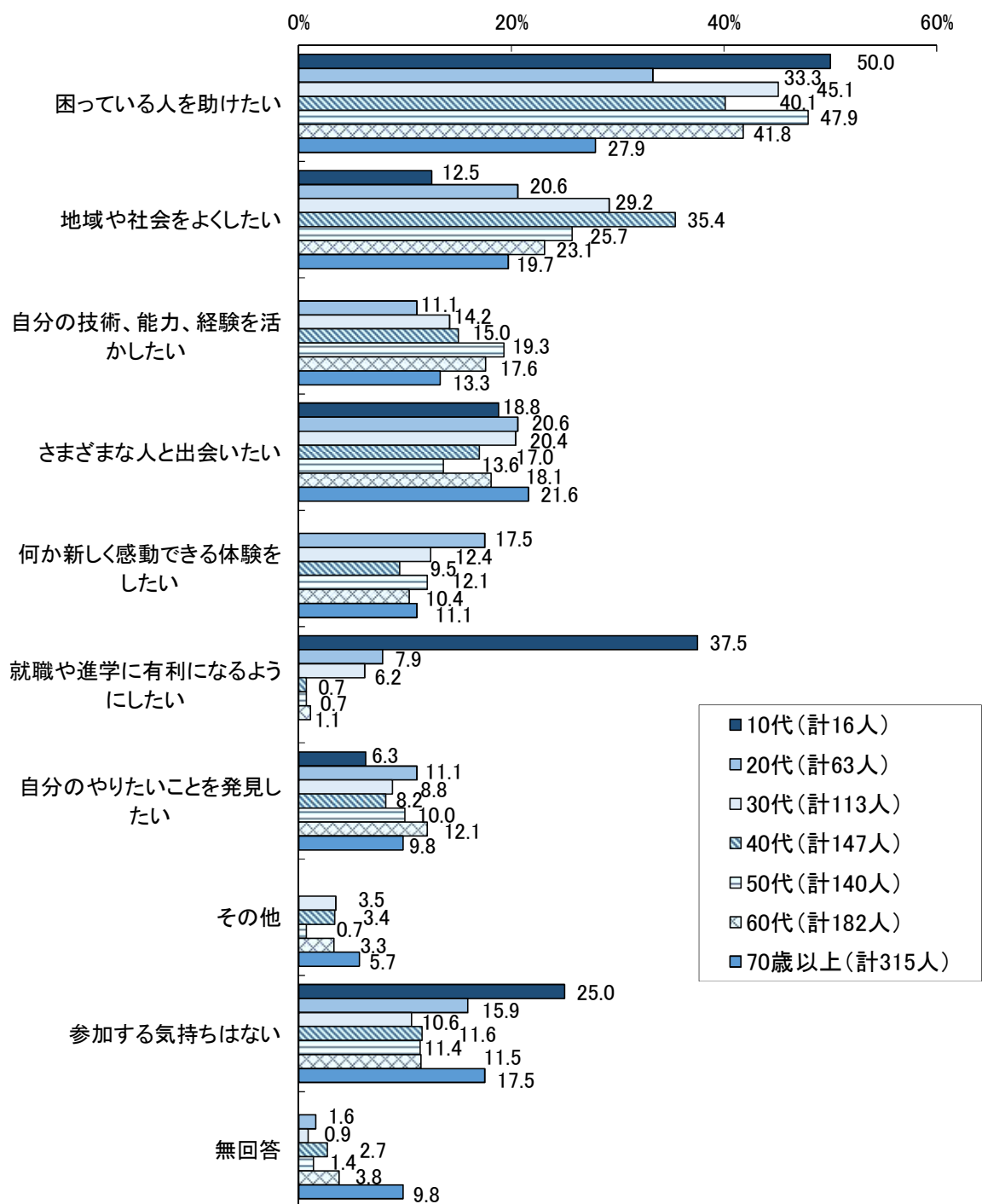
問15 地域活動に参加する際に苦勞すること、又は参加できない要因となっていることは何ですか。



- 地域活動に参加する際に苦勞すること、または参加できない要因としては、10代から60代ではいずれも「活動する時間がないこと」との回答が最も多く、70歳以上では「参加するきっかけが得られないこと」が最も多くなっています。

問16 もしボランティア活動に参加するとしたら、何が動機になりますか。

【ボランティア活動に参加する動機×年代】

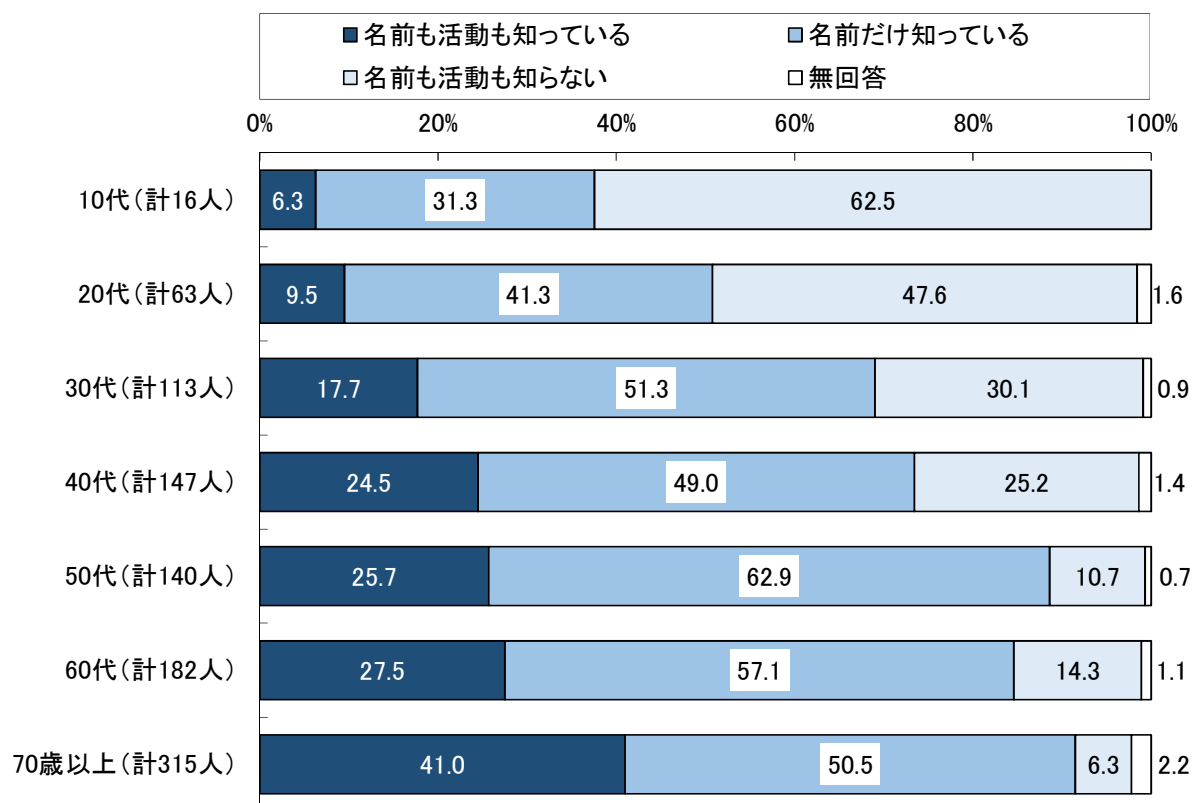


- ボランティアに参加する際の動機については、いずれの年代でも「困っている人を助けたい」との回答が最も多くなっています。
- 10代では「就職や進学に有利になるようにしたい」(37.5%)、40代では「地域や社会をよくしたい」(35.4%)の割合が、他に比べ高くなっています。
- 「参加する気持ちはない」では10代(25.0%)の割合が、他の年代に比べ高くなっています。

### 3. 地域福祉に関する活動や制度について

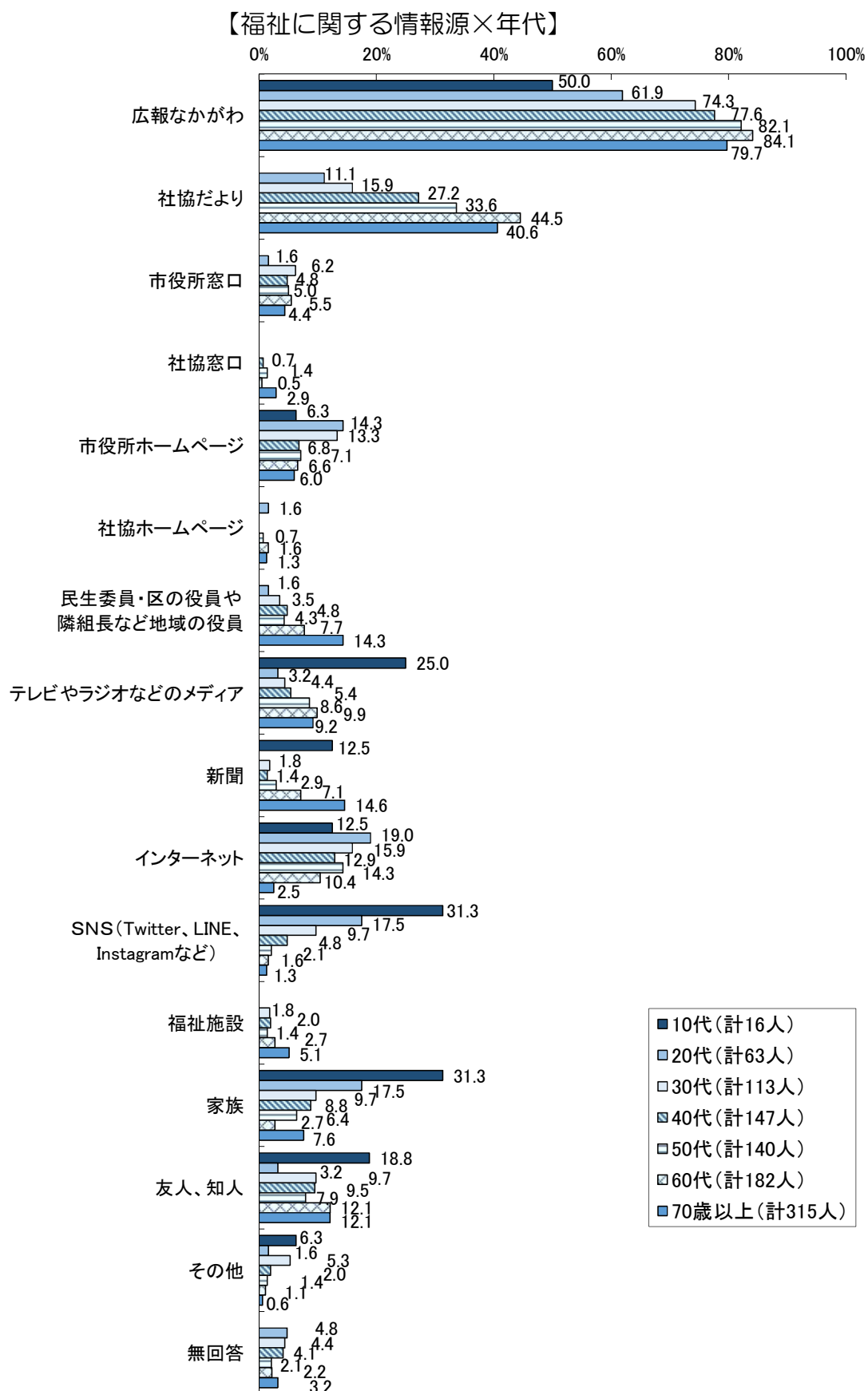
問17 あなたは「社会福祉協議会」を知っていますか。

【社会福祉協議会の認知状況×年代】



- 社会福祉協議会の認知について、年代別 30 代以上では「名前だけ知っている」での回答が最も多くなっています。
- 「名前も活動も知っている」は年齢層が高くなるにつれ割合が高くなっており、若い年齢層ほど認知状況が低くなっている傾向にあることがわかります。

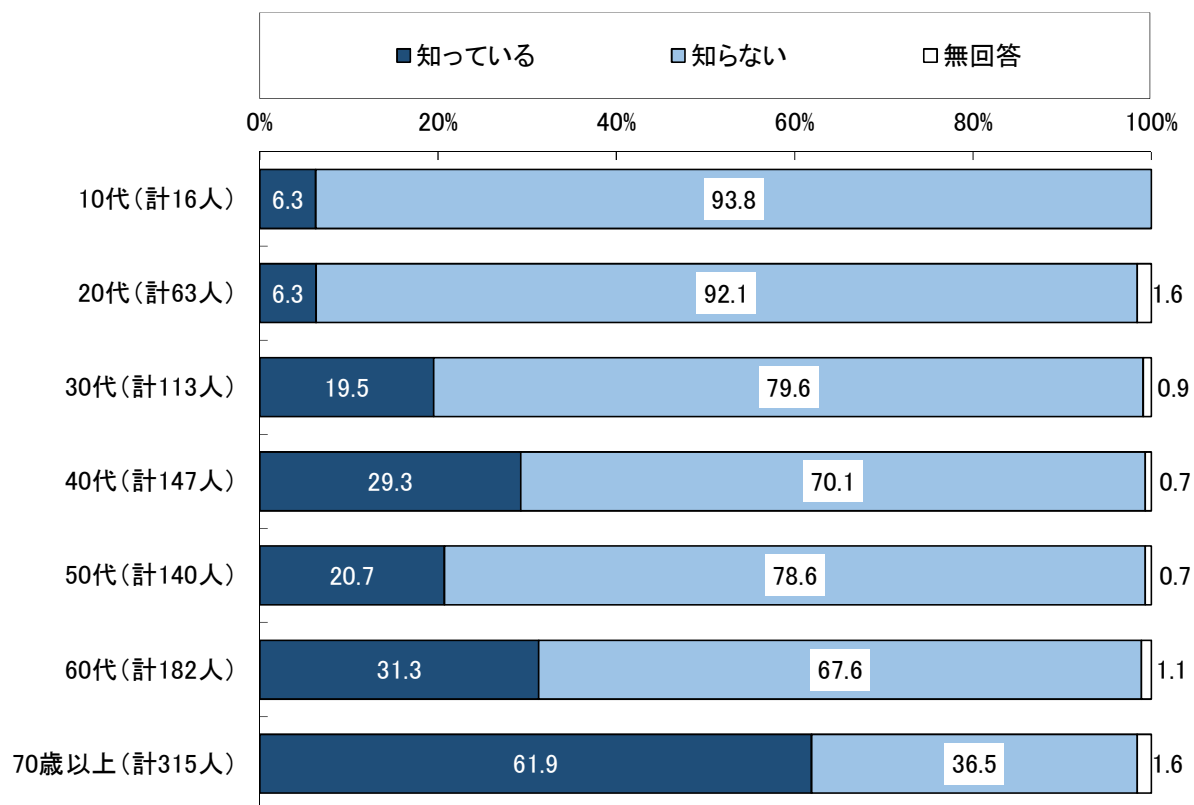
問１８ あなたは福祉に関する情報（福祉サービスやボランティア活動に関する情報）をどこから得ていますか。



- 福祉に関する情報の入手先としては、いずれの年代も「広報なかがわ」での回答が最も多くなっています。
- 10代では「家族」(31.3%)。「友人、知人」(18.8%)。「テレビやラジオなどのメディア」(25.0%)、「SNS (Twitter、LINE、Instagram など)」(31.3%)の割合が、他に比べ高くなっています。
- 「社協だより」「民生委員・区の役員や隣組長など地域の役員」などでは、年齢層が高くなるにつれ割合が高くなっています。

問19 あなたは、自分の住んでいる地域を担当している民生委員・児童委員を知っていますか。

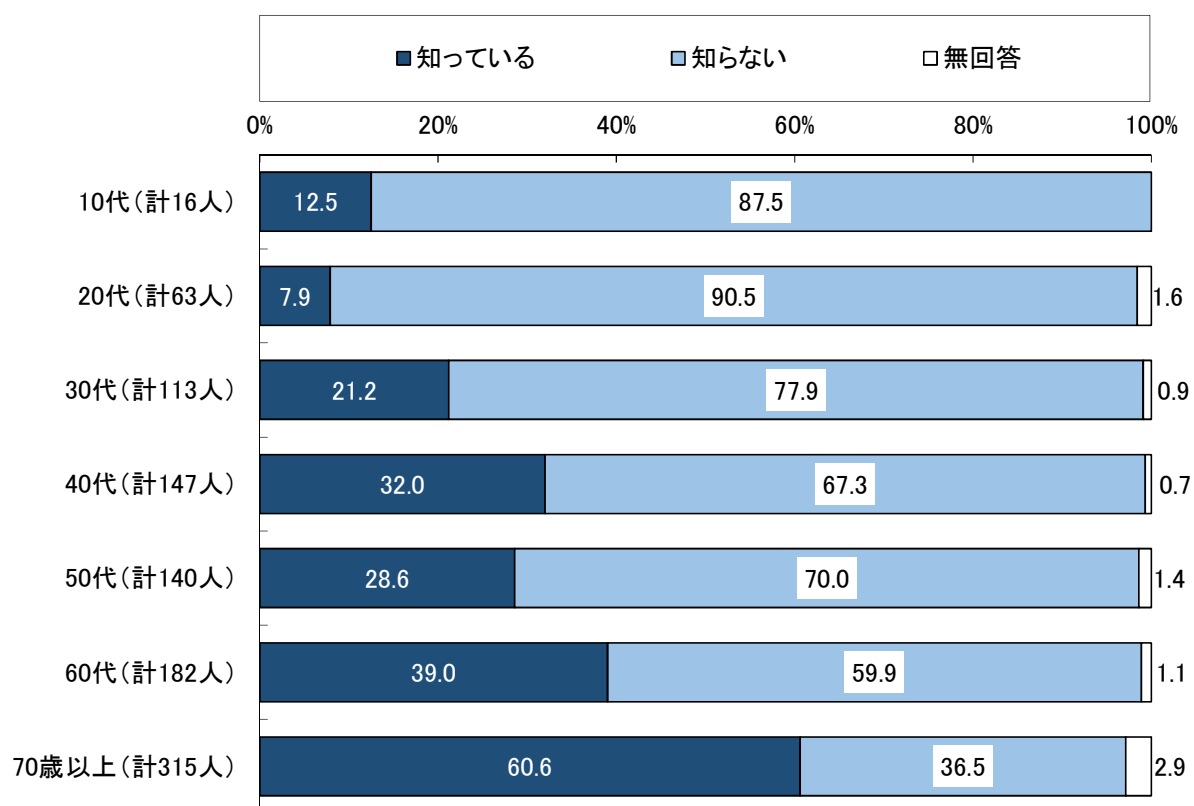
【居住区域の担当民生委員・児童委員の認知状況×年代】



- 地域の民生委員・児童委員の認知状況では、高い年代になるにつれ「知っている」の割合が高くなる傾向にあり、70歳以上では6割以上が認知している状況にあります。
- 一方「知らない」では若い年齢層の割合が高く、10～20代では9割以上の人が認知していない状況となっています。

問20 あなたは、民生委員・児童委員の活動内容を知っていますか。

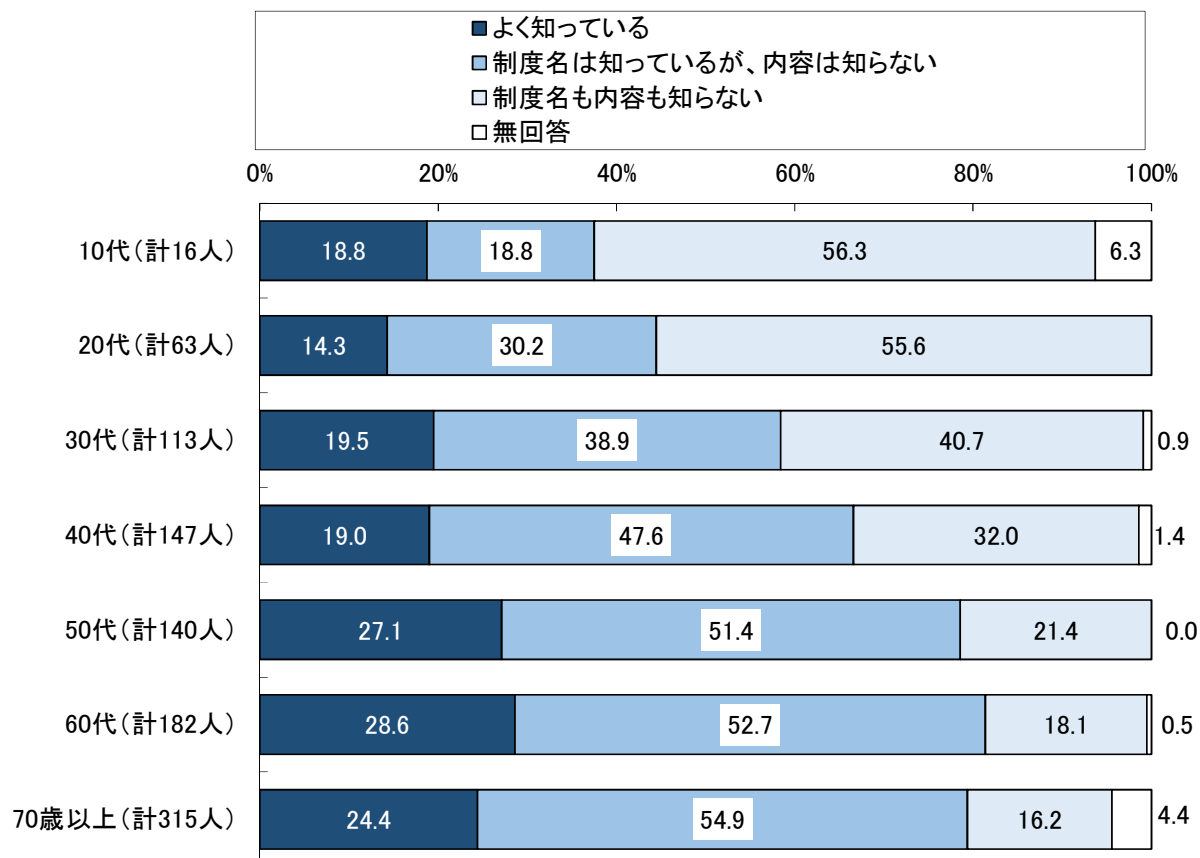
【民生委員・児童委員の活動内容の認知状況×年代】



- 民生委員・児童委員の活動内容に関する認知については、高い年代ほど「知っている」の割合が高く、70歳以上では約6割が認知している状況にあります。
- 一方60代以下の年齢層では若い年代ほど「知らない」との回答が多く、10～20代では9割前後の人が認知していない状況となっています。

問2 1 成年後見制度は、障がいや認知症などで判断能力が十分でない場合、ご本人に代わり財産管理や施設入所・入院の契約手続きなどを後見人が支援する制度です。あなたはこの制度について知っていますか。

【成年後見制度の認知状況×年代】

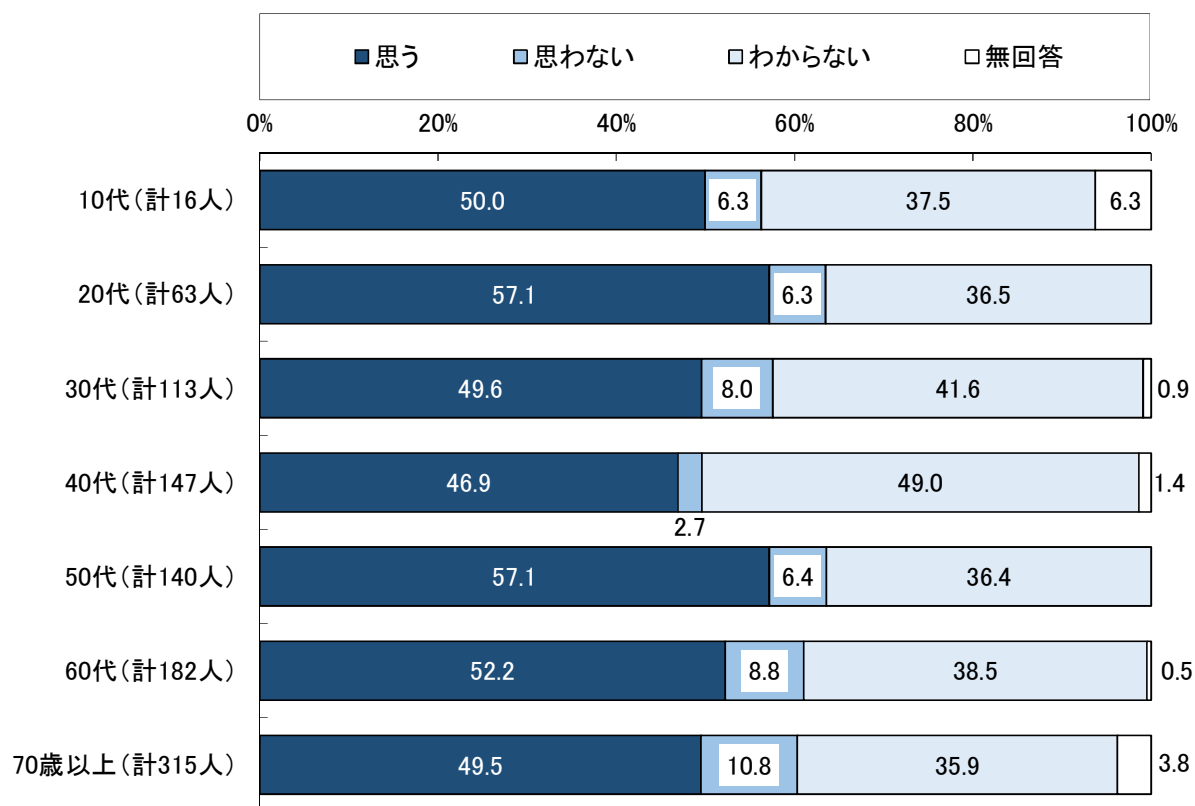


- 成年後見制度の認知状況については、年齢が高くなるにつれ「制度名は知っているが、内容は知らない」の割合が高くなり、認知度が高くなる傾向にあります。
- 10～20代では「制度名も内容も知らない」の割合が5割を超え、認知度が低い状況にあります。



問22 あなたは、今後、成年後見制度の必要性は高くなると思いますか。

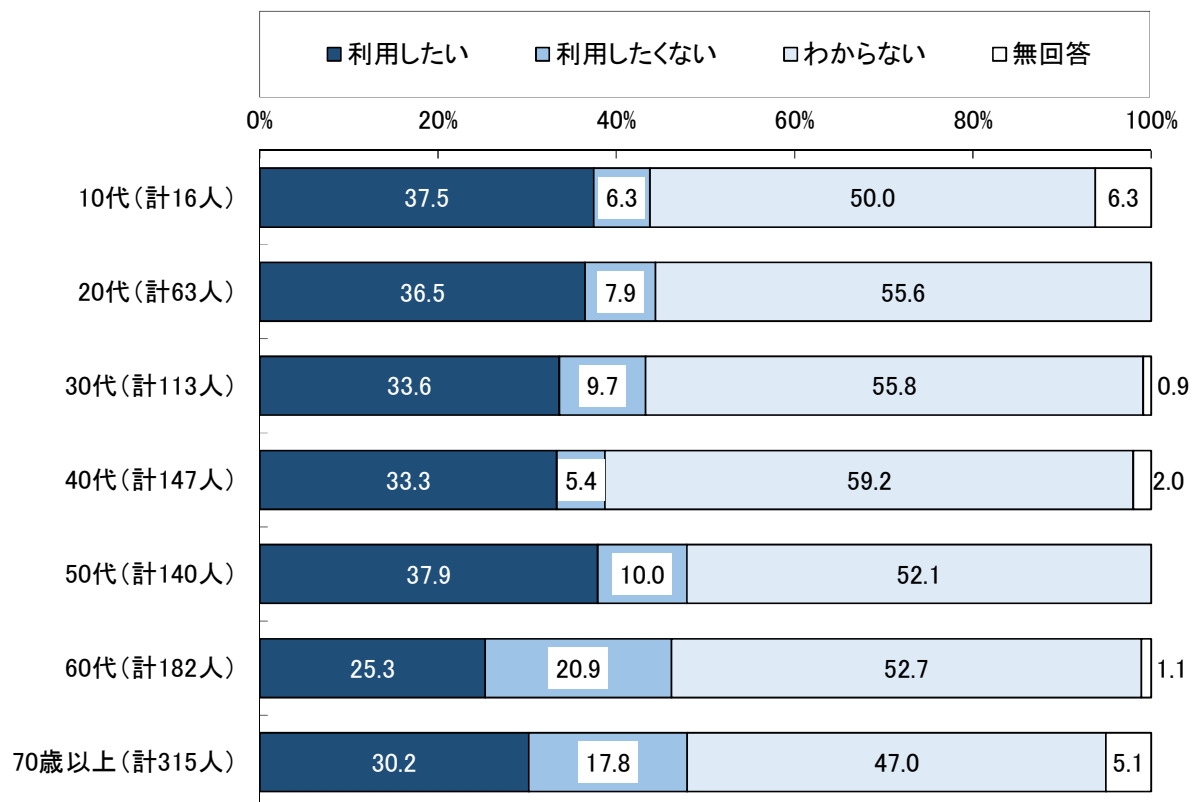
【今後成年後見制度の必要性は高くなると思うか×年代】



- 今後、成年後見制度の必要性は高くなるかについて、年代別では、40代以外の年齢層で「思う」との回答が最も多くなっています。

問23 あなた自身や親族が、認知症等により判断が十分にできなくなったとき、成年後見制度を利用したいと思いますか。

【今後の成年後見制度の利用意向×年代】

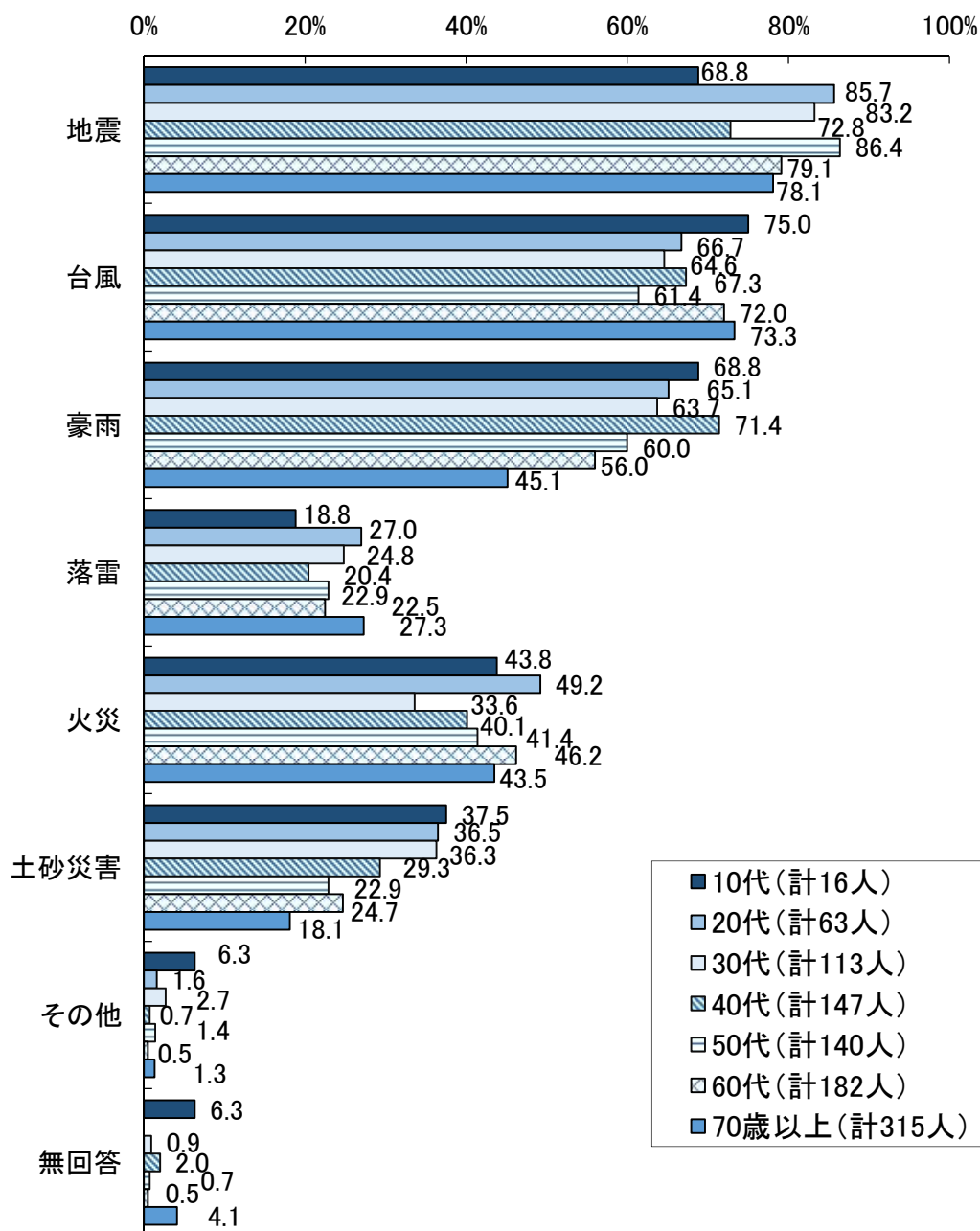


- 成年後見制度の利用意向については、いずれの年代でも「わからない」との回答が最も多くなっています。

## 4. 災害時の対応について

問24 あなたが、身近で不安に感じる災害は何ですか。

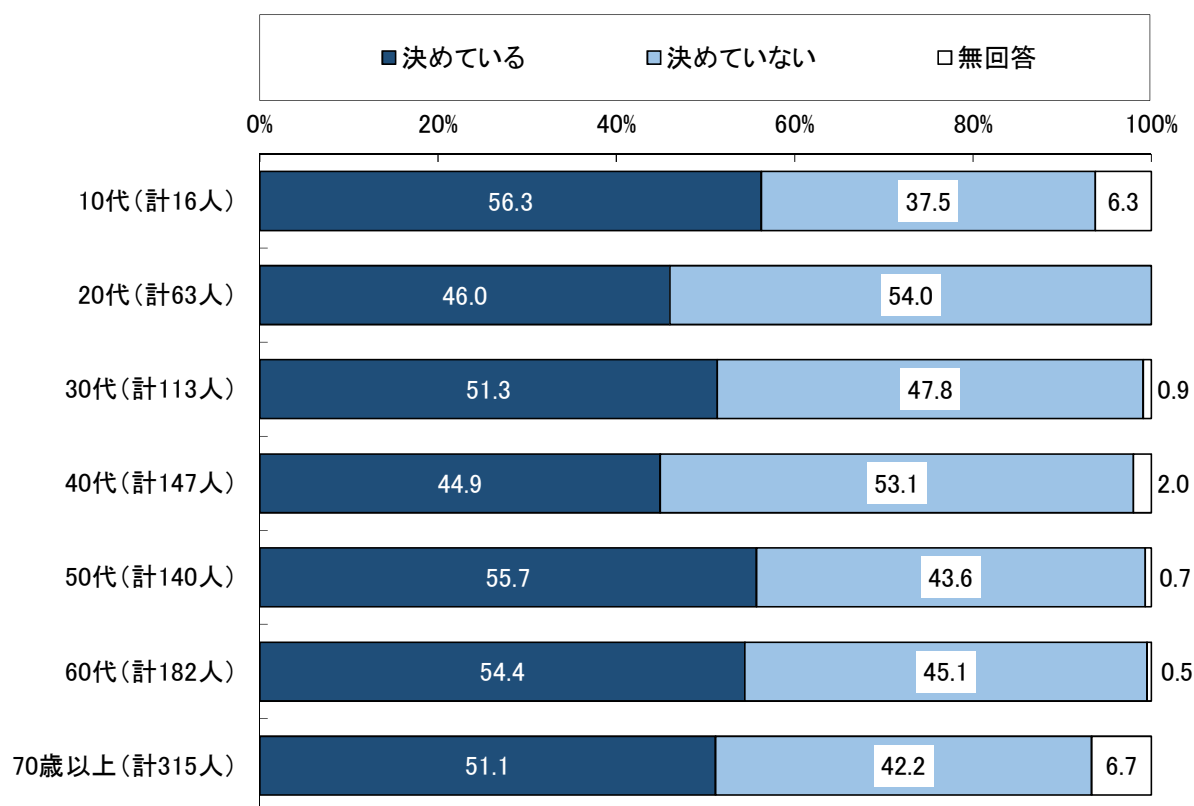
【身近で不安に感じる災害×年代】



- 身近で不安に感じる災害では、10代では「台風」、そのほかではいずれの年代も「地震」との回答が最も多くなっています。
- このほか「台風」「豪雨」も全体に高い割合を占めていますが、「台風」では「豪雨」に比べ60代以上の割合が高くなっています。

問25 災害時に避難をする避難場所を決めていますか。

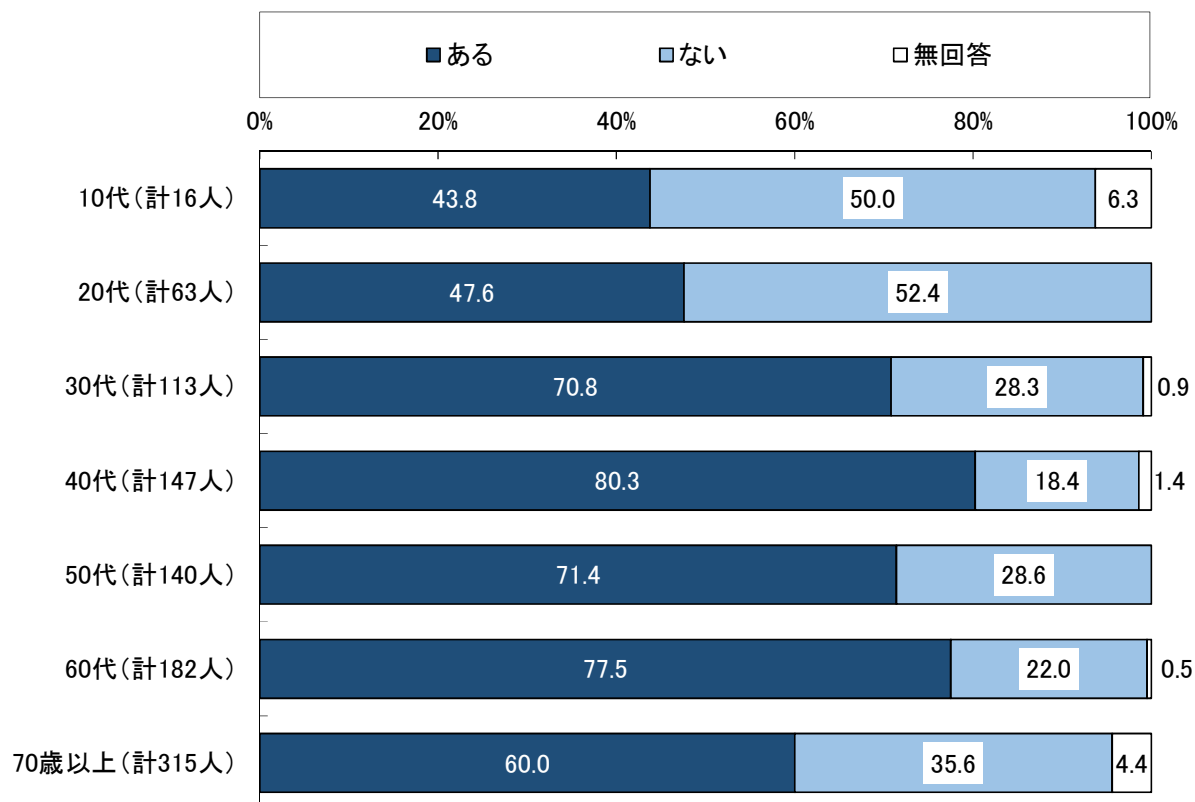
【避難場所の決定状況×年代】



- 災害時に避難する避難場所を決めているかについては、20代、40代では「決めていない」が最も多く、このほかではいずれも「決めている」の回答が最も多くなっています。

問26 あなたの住んでいる地域での災害時の危険性について、ハザードマップ等で確認したことがありますか。

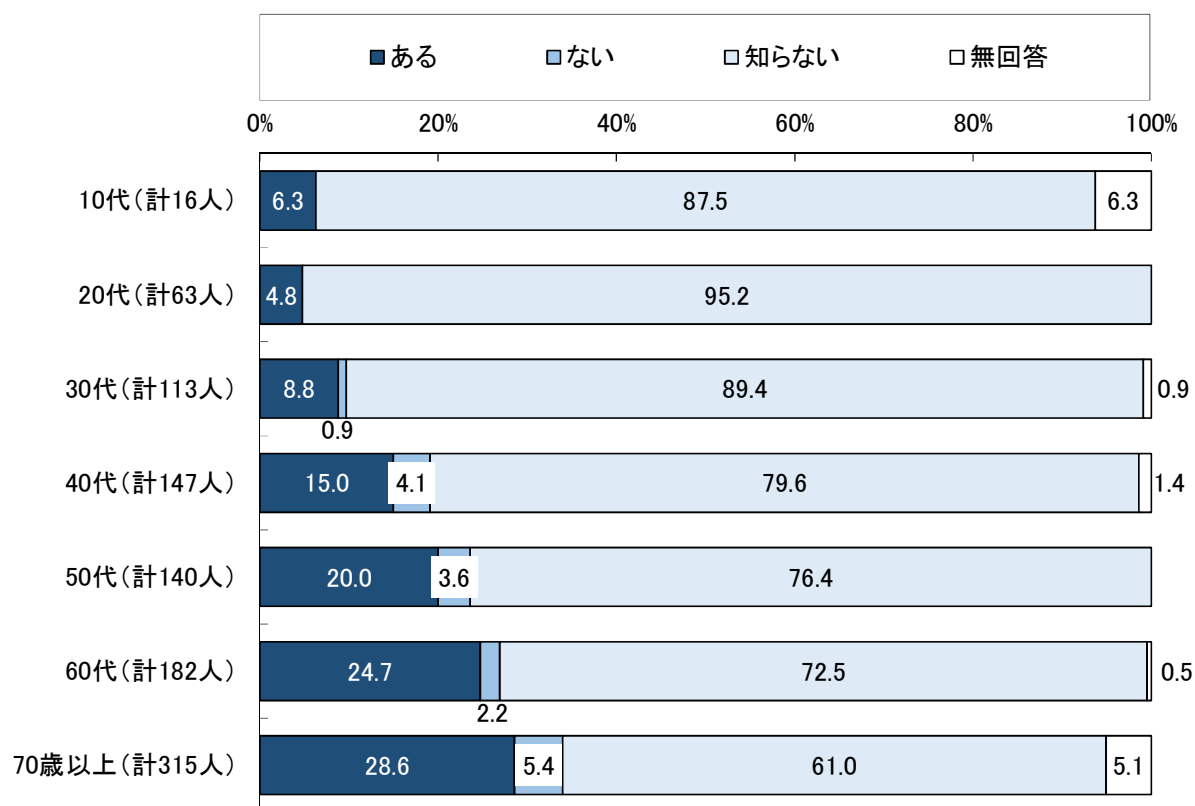
【居住地域の危険性についてハザードマップ等での確認経験×年代】



- 災害時の危険性についてハザードマップ等で確認したことの有無については、20代以下では「ない」との回答が多く、このほかの年代ではいずれも「ある」との回答が多くなっています。
- 30代から60代にかけては「ある」の割合が他に比べて高く、40代では80.3%が回答しています。

問27 あなたの行政区に自主防災組織はありますか。

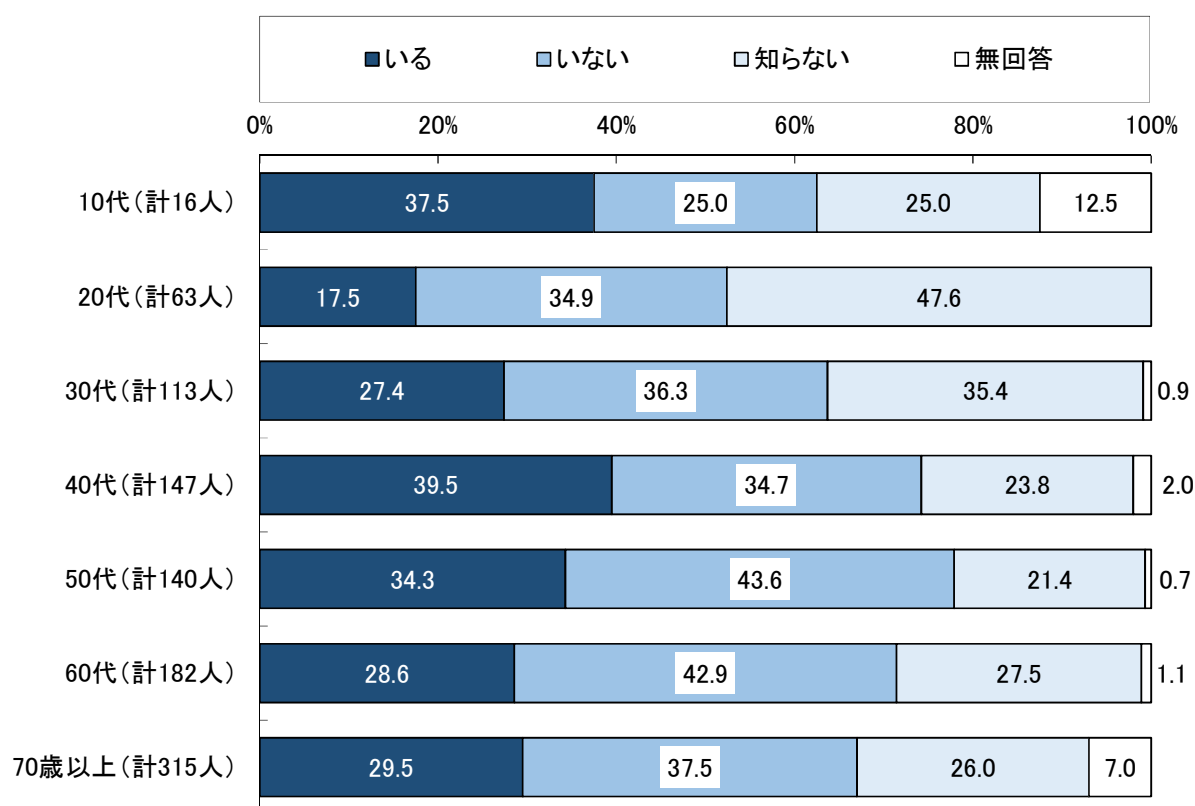
【居住行政区の自主防災組織の有無×年代】



- 行政区の自主防災組織の有無について質問したところ、全体では「知らない」との回答が多く、若い年代ほどその割合が高くなっています。
- 一方で、年齢層が高くなるにつれ自主防災組織が「ある」と回答した割合が高くなる傾向にあります。

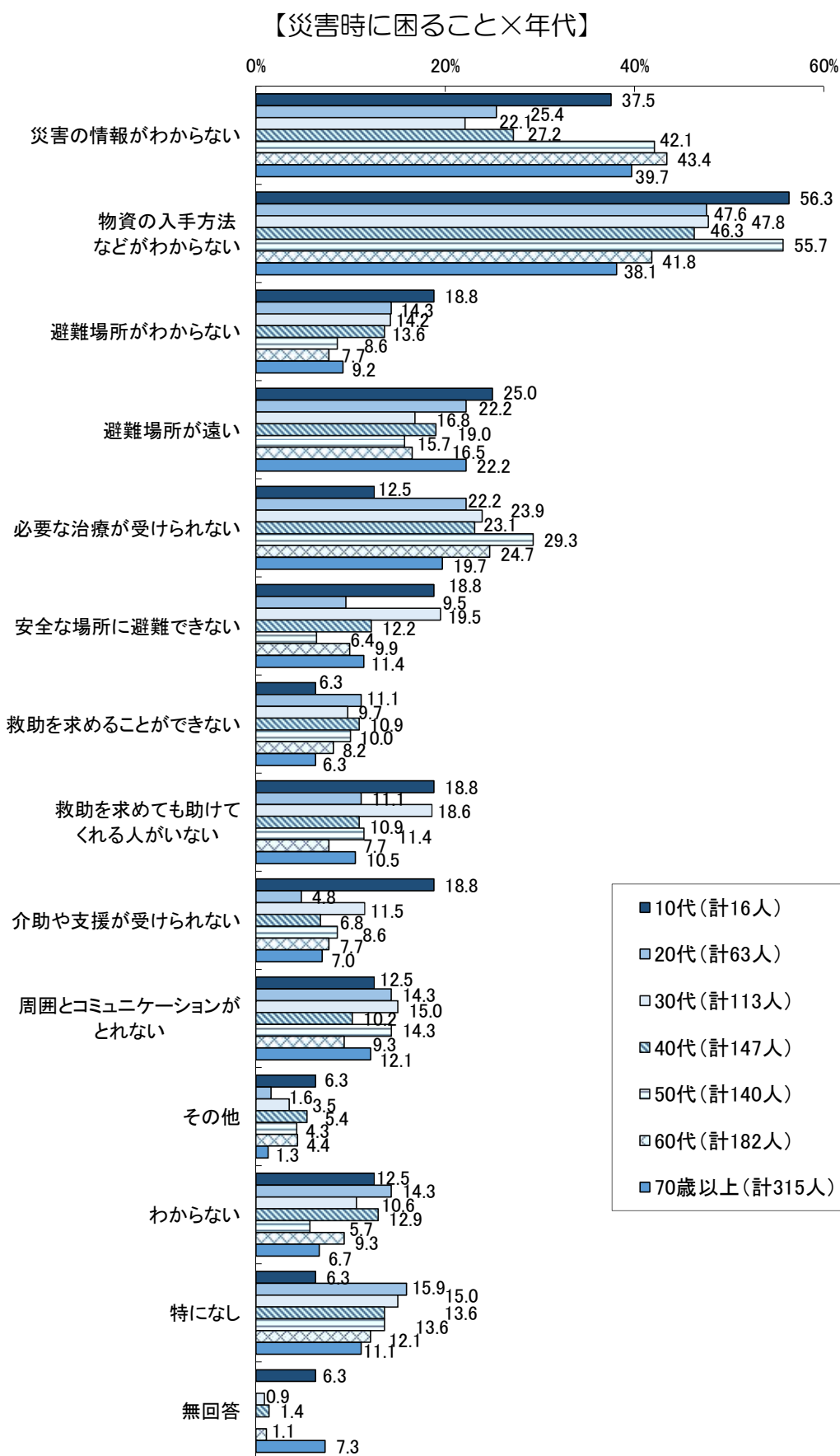
問28 災害時に気になる人が近所にいますか。

【災害時に近所に気になる人がいるか×年代】



- 災害時に気になる人が近所にいるかについて質問したところ、40代では「いる」との回答が多くなっています。
- 10代では「知らない」との回答が多く、40代にかけて減少し、その後70歳以上まで増加しています。

問29 災害時に、困ることはどのようなことだと思いますか。

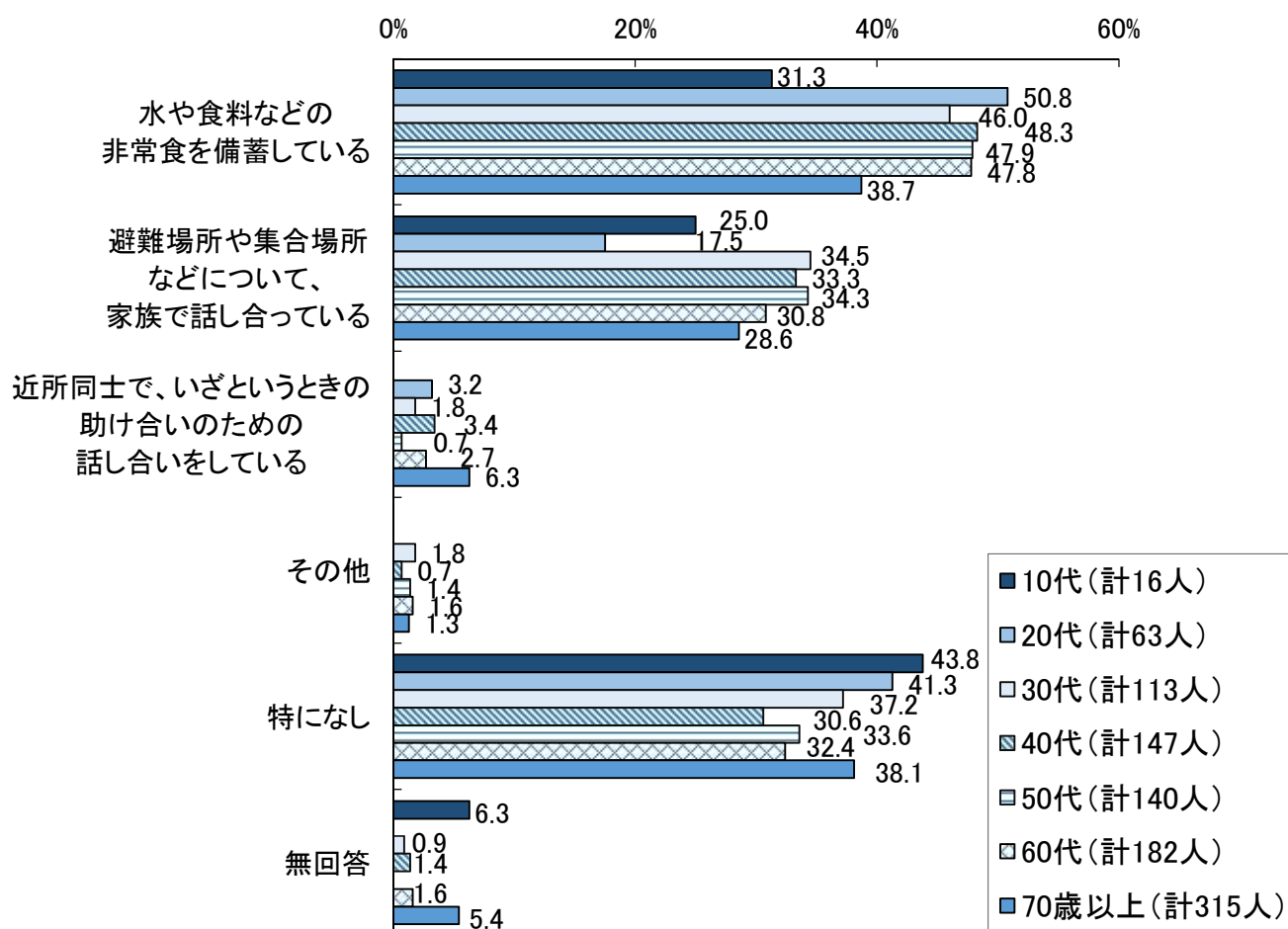




- 災害時に困ることについて質問した結果、10代から50代にかけては「物資の入手方法などがわからない」での回答が最も多くなっています。
- 60代以上では「災害の情報がわからない」との回答が多く、このほか10代では「介助や支援が受けられない」、50代では「必要な治療が受けられない」などの割合が、他に比べ高くなっています。

問30 地震や風水害などの災害に対してどのような備えをしていますか。

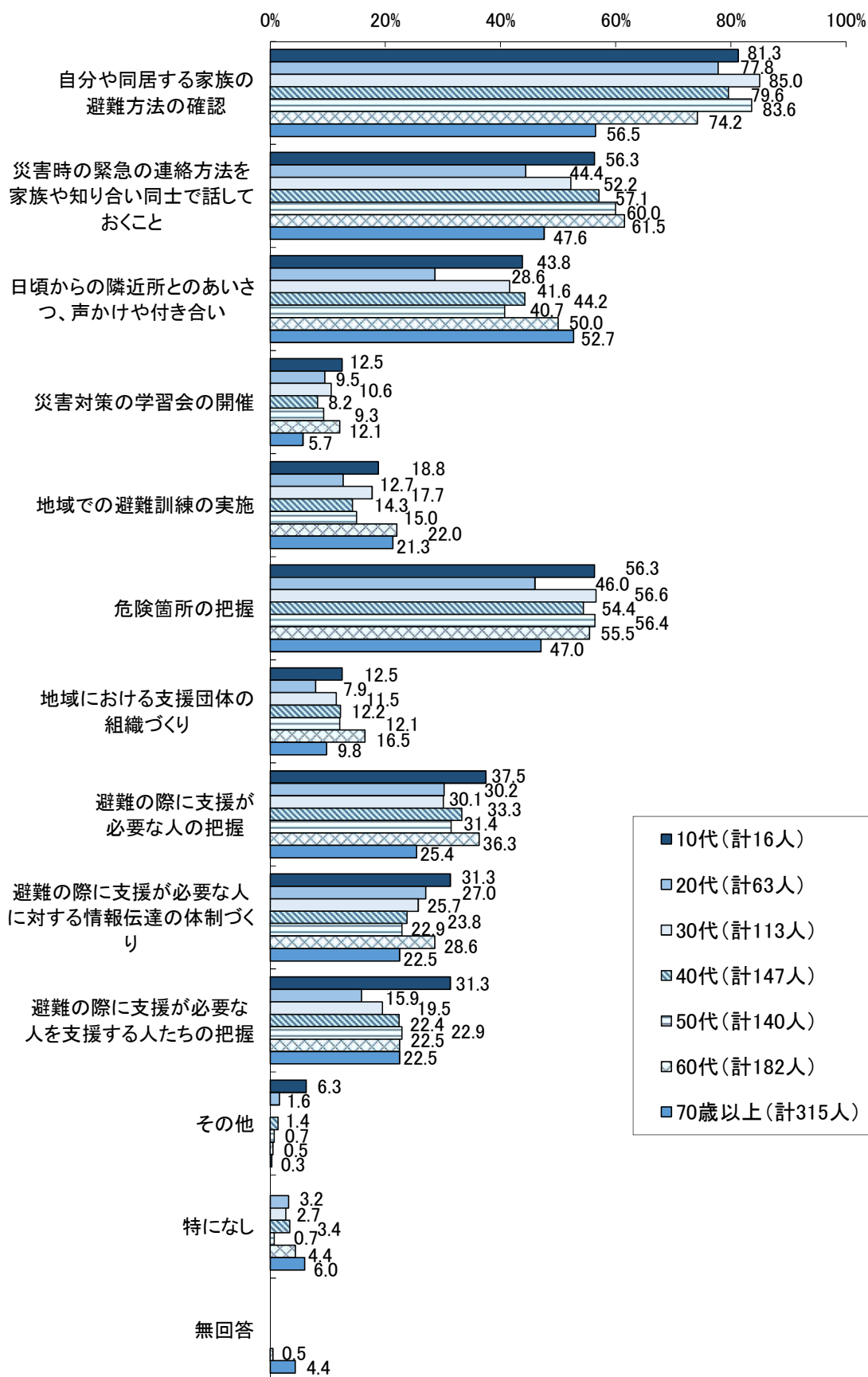
【災害に対する備え×年代】



- 地震や風水害に対する備えとしては、10代では「特になし」が最も多く、このほかではいずれも「水や食料などの非常食を備蓄している」での回答が最も多くなっています。
- 「避難場所や集合場所などについて、家族で話し合っている」では20代の割合が他に比べ低くなっています。
- 一方、「特になし」と災害への備えをしていない人は、いずれの年代でも3～4割を占めています。

問3 1 災害時の備えとして重要なことはどのようなことだと思いますか。

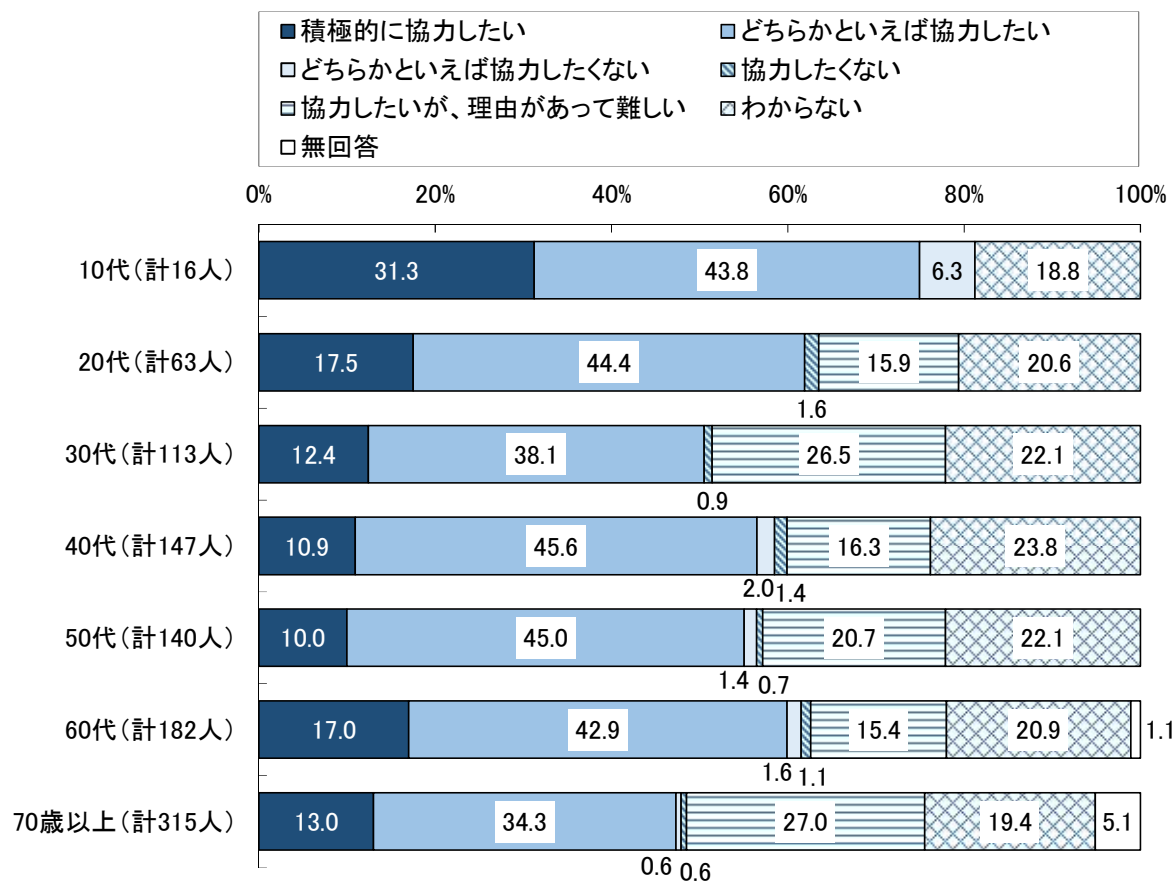
【災害時の備えとして重要だと思うこと×年代】



- 災害時の備えとして重要なこととしては、いずれの年代も「自分や同居する家族の避難方法の確認」での回答が最も多くなっています。
- 「災害時の緊急の連絡方法を家族や知り合い同士で話しておくこと」では50代、60代、「危険箇所の把握」については、20代、30代で他に比べ割合が高くなっています。

問32 市では、災害時に避難することが困難な人が、地域の助け合いによって避難できるよう「避難行動要支援者」を登録しています。このような人が近所にいたら支援する人として協力したいと思いますか。

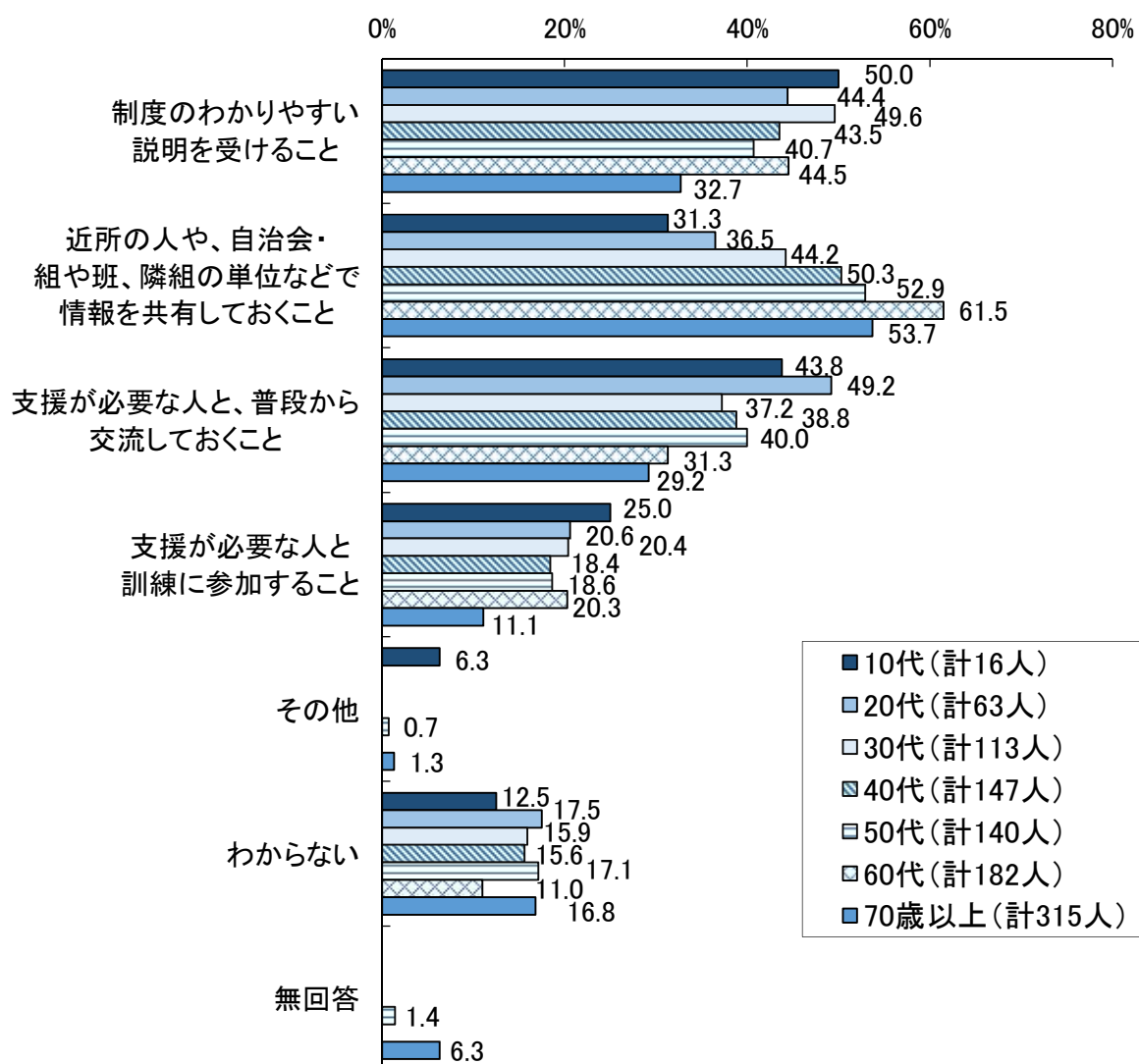
【避難行動要支援者への支援意向×年代】



- 避難行動要支援者への協力については、いずれの年代も「どちらかといえば協力したい」での回答が最も多く、『協力したい』（「積極的に協力したい」＋「どちらかといえば協力したい」）の割合は、70歳以上を除き、いずれも過半数を占めています。

問33 避難行動要支援者の人を支援するためには、どのような機会や取組があれば支援しやすくなると思いますか。

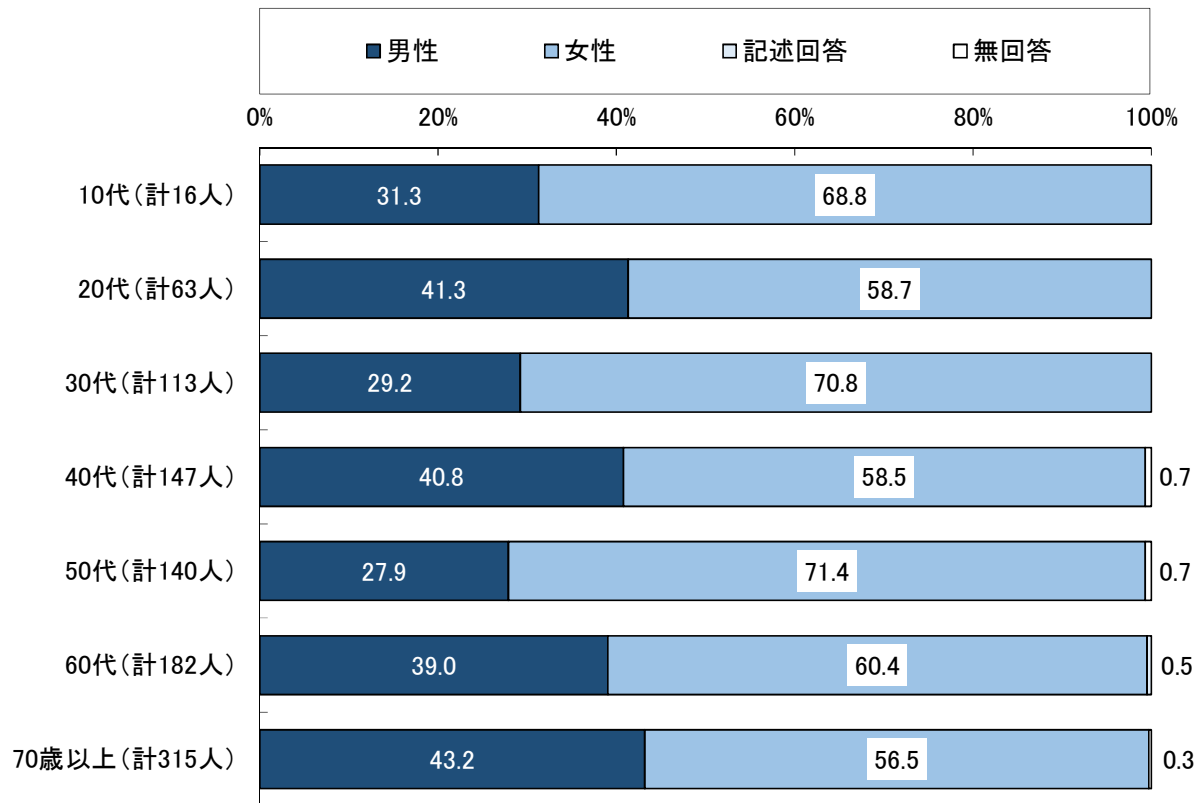
【避難行動要支援者の支援に必要な取組×年代】



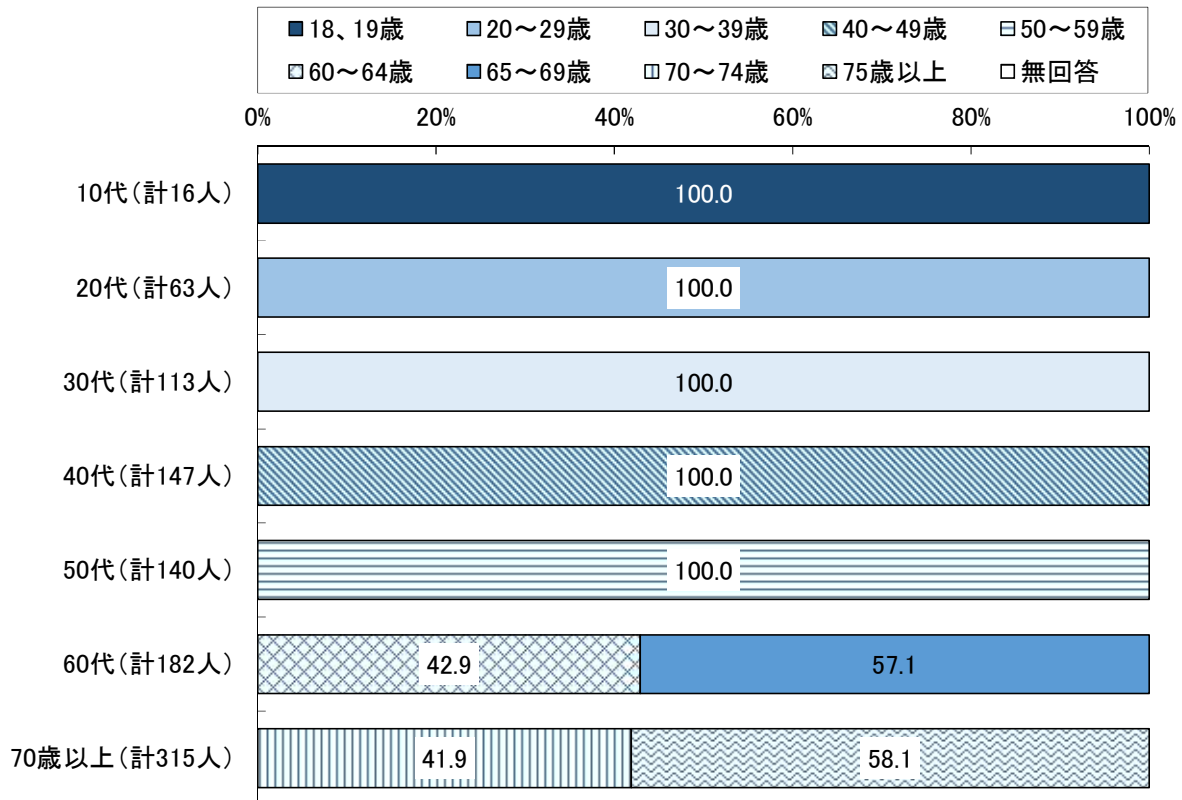
- 避難行動要支援者の支援のために必要な取り組みとしては、10代、30代では「制度のわかりやすい説明を受けること」、20代では「支援が必要な人と、普段から交流しておくこと」、40代以上の年齢層では「近所の人や、自治会・組や班、隣組の単位などで情報を共有しておくこと」での回答が最も多く、特に60代では61.5%と他に比べ割合が高くなっています。

## 5. 調査対象者の属性

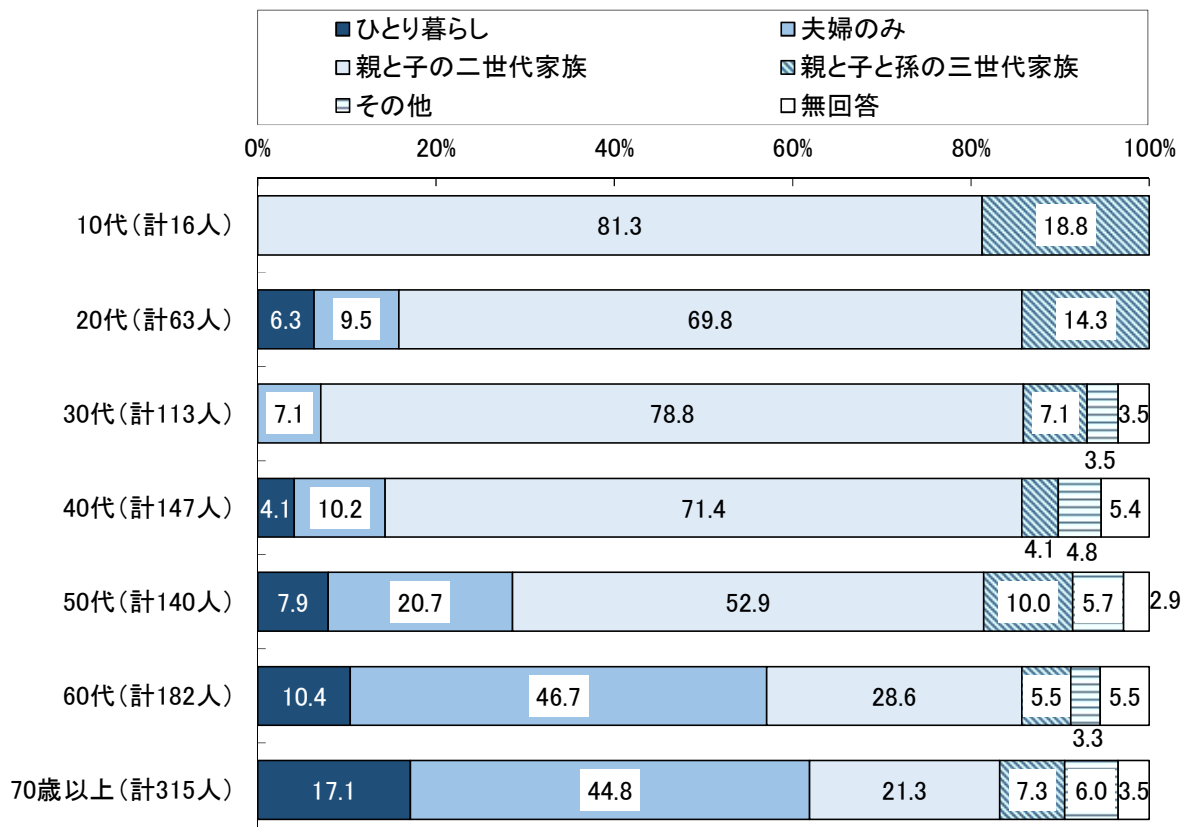
【性別×年代】



### 【年齢×年代】

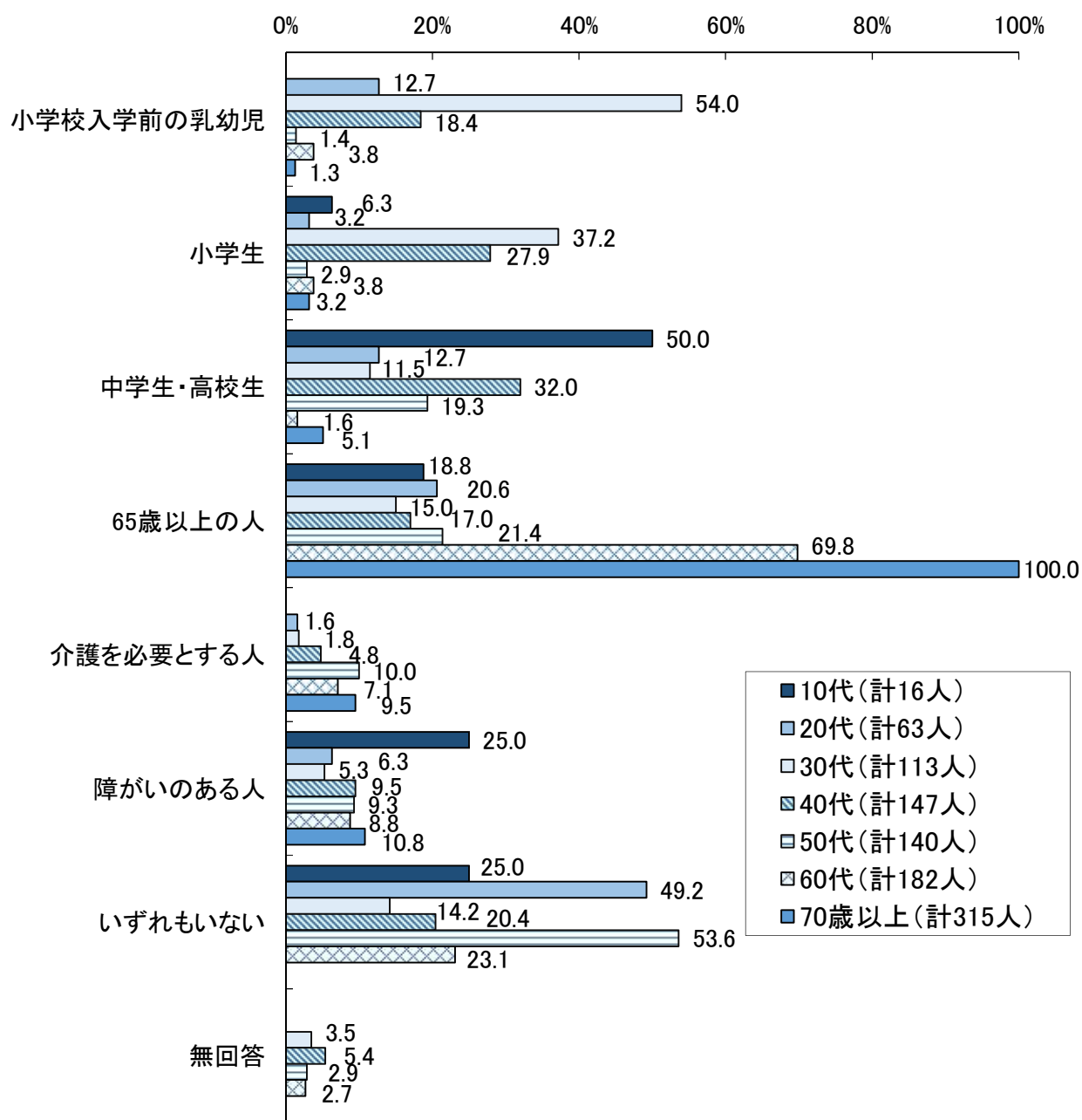


### 【家族構成×年代】

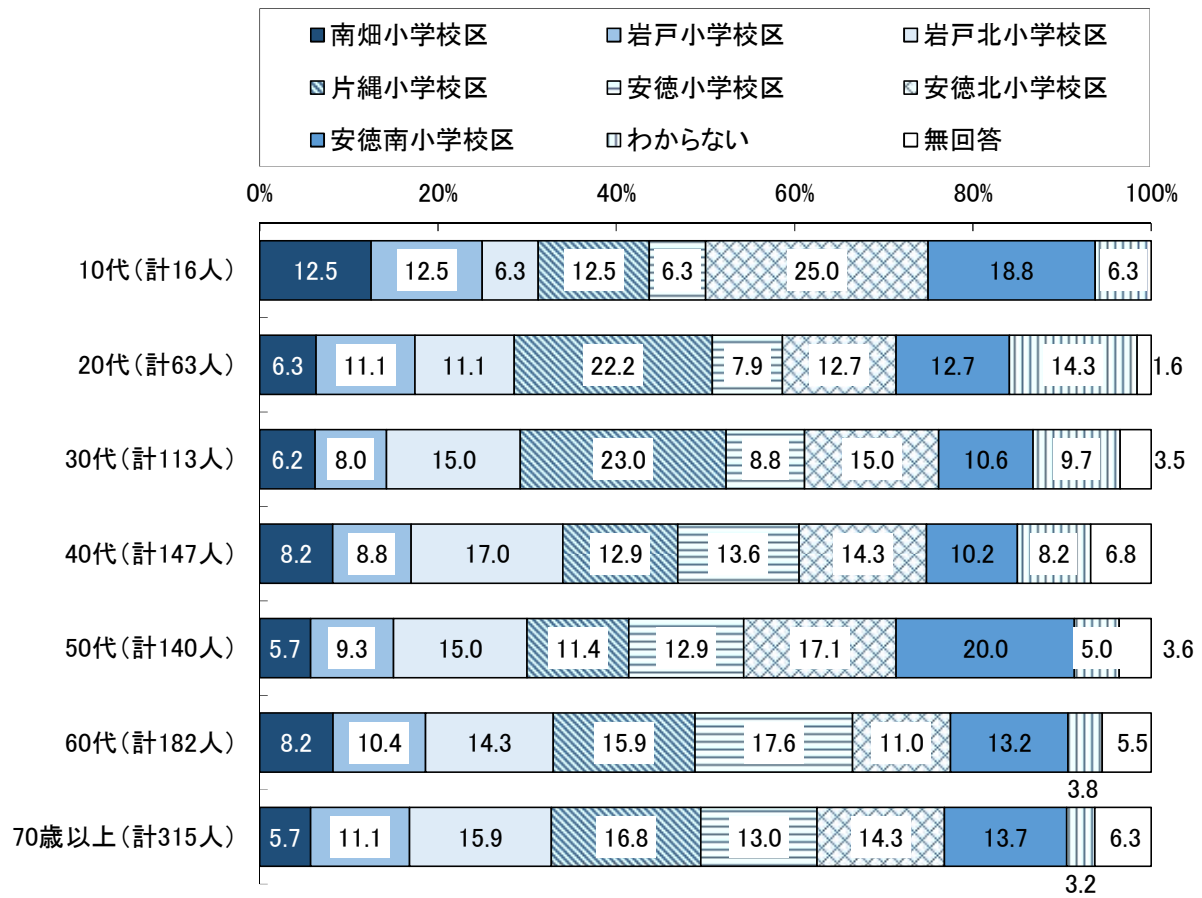




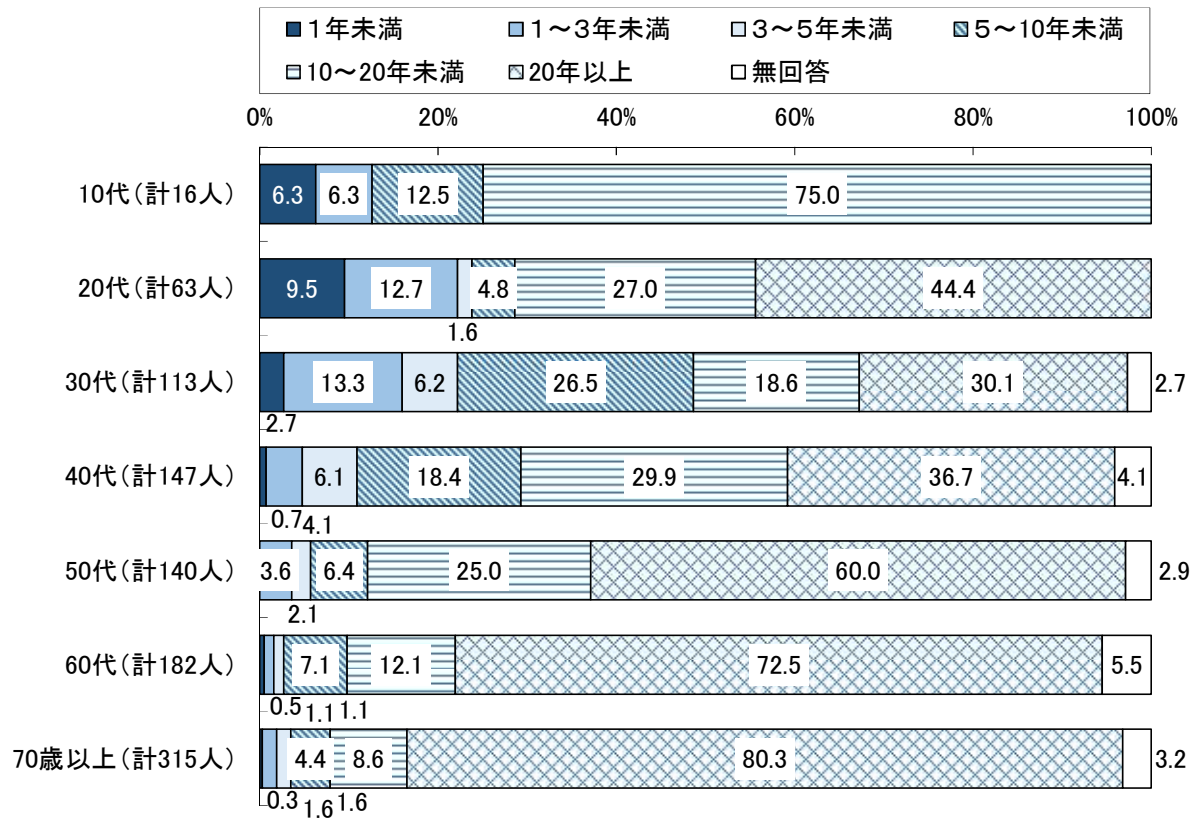
【家族状況×年代】



【居住地区×年代】



【居住年数×年代】





---

第 3 部  
課 題 の 整 理

---



## 1. 地域の結びつきについて

日頃、近所の人とどのような付き合いをしているか質問した結果では、若い年代ほど「会えばあいさつをする程度」の割合が高く。一方で「困っているとき（病気や悩み、事故など）相談したり助けあったりする」「留守をするときに声を掛け合う程度」「たまに立ち話をする程度」などでは、年代とともに高くなる傾向にあります。これに対し、近所の人に何か頼んだり頼まれたりしたことがあるかについては、いずれの年代でも「特になし」と答えた人が多く、特に20代の若い人でこの傾向が顕著になっています。これらの結果からは、本市においても、近所（地域）の結びつきは、特に若い世代を中心に希薄化していることがうかがえます。

一方で、住民が助け合うべき「地域」の範囲を質問した結果では10代、20代の若い世代でも「隣近所」との回答が過半数を占め、60代以上の高い年齢層でも同様の傾向にあり、近隣での助け合いが必要であることは認識されているようです。

また、地域で「問題と感じていること」「住民同士で助け合う必要があると思うこと」に対する回答として、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯への支援、災害時の助け合い、子育てで悩んでいる家庭への支援等などが高い割合を占めていることから、これらの地域の問題に対し、住民同士で支え合うことの大切さは、多くの市民に認識されているものと考えられます。

これらのことから、今後、少子高齢化の進行に伴い深刻化することが予想される地域の問題に対して、日頃からの地域の結びつきを強くすることで、住民同士の支え合いを進めていくことができる地域づくりを進めていくための取り組みが必要となっています。

## 2. 地域活動について

世帯の自治会への加入状況を質問した結果をみると、中・高年齢層では6～8割程度が加入していると高い割合を占めるものの、10代、20代では割合が低くなっており、行政区などの活動への参加についても、若い世代では「特にない」の割合が他に比べ高くなっています。

また、地域の活動を担っている民生委員・児童委員、社会福祉協議会の認知度についても若い年代ほど低い傾向がみられ、今後はこの世代を中心に、地域での活動に関する認知を高めていく必要があります。

### 3. 地域の安全・安心について

自己の意思決定が困難になった方に対する支援制度である「成年後見制度」については、制度名までの認知度は高い年代ほど高くなる傾向にあり、今後の必要性については多くの年代で「思う」との回答が多くなっています。しかしながら自身や家族が必要となった場合に利用するかについては「わからない」とする回答が多くなっており、今後制度の内容についての理解を深め、必要となった場合に希望する人が適切に利用できるような環境整備に取り組む必要があります。

近年、風水害や地震災害など、本市を含め、県内、九州圏域内でも大きな被害を受けるようなケースが発生しています。アンケート調査の結果をみても、身近で不安を感じる災害として、地震、台風、豪雨などの割合が高くなっており、備えとして水や食料の準備、避難場所の確認、ハザードマップによる危険個所の確認などは、比較的高い割合を占めています。

一方で、行政区の自主防災組織については「知らない」との回答が多く、災害時に近所に気になる人が「いる」と回答した人も一定程度見られ、災害時の対応に関する課題が見受けられます。

市や社会福祉協議会では、自主防災組織への支援や、災害時に支援の必要な人を事前に把握し、対応を決めておくための「災害時行動要支援者」の登録を進めています。

今後は、災害発生時に地域で支え合うためのこれらの取組を推進し、誰もが安心して暮らしていくことのできる地域づくりを進めていくことが必要です。